

資料

## 2006年2月22日「竹島の日」啓発行事

- ・日 時 平成18年2月22日(水) 13:00～16:10
- ・会 場 島根県民会館 大会議室(3F)松江市殿町158

主 催

島根県／島根県議会／竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議

## 開 催 趣 旨

「竹島の日を定める条例」が施行されて初めての「竹島の日」を迎え、  
条例の趣旨に沿った啓発行事を行います。

### ◇ 竹 島 の 日 の 集 い …………… 13:00 ～ 13:30

#### 次 第

##### ○主催者あいさつ

- ・島根県知事あいさつ
- ・竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議会長あいさつ
- ・島根県議会代表あいさつ

##### ○来賓のご紹介

- 竹島領土権確立隠岐期成同盟会会長あいさつ

### ◇ 竹 島 を 考 え る フ ォ ー ラ ム …………… 14:00 ～ 16:10

#### 次 第

##### ○竹島問題研究会 座長 下條正男 氏

「竹島の日条例制定から1年（論点整理）」

##### ○竹島問題研究会 委員 谷口博繁 氏

「鳥取藩政資料から見た竹島問題（安龍福の来藩の記録）」

～ 小 休 憩 ～

##### ○国立国会図書館 参事 塚本孝 氏

「国際法や外交文書からみる竹島問題」

##### ○竹島問題研究会 委員 船杉力修 氏

「地図・絵図からみる竹島 — 韓国側の史料を事例として — 」

##### ○質疑応答

2006年2月22日「竹島の日」啓発行事アンケート

お手数ですが、今後の啓発活動の参考としたいと存じますのでアンケートにご協力ください。

▽問 い1

本日は、どちらからお越しになりましたか？。次の選択肢に○を付してください。

- あ) 島根県内                      い) 島根県外

▽問 い2

竹島を考えるフォーラムでの解説により、竹島問題について理解できましたか？。それぞれのテーマについて、選択肢に○を付してください。

- ・テーマ…「竹島の日条例制定から1年（論点整理）」
  - あ) よく理解できた。      い) 理解しようとするが、問題が複雑すぎると感じた。
  - う) その他
  
- ・テーマ…「鳥取藩政資料から見た竹島問題（安龍福の来藩の記録）」
  - あ) よく理解できた。      い) 理解しようとするが、問題が複雑すぎると感じた。
  - う) その他
  
- ・テーマ…「国際法や外交文書からみる竹島問題」
  - あ) よく理解できた。      い) 理解しようとするが、問題が複雑すぎると感じた。
  - う) その他
  
- ・テーマ…「地図・絵図からみる竹島」
  - あ) よく理解できた。      い) 理解しようとするが、問題が複雑すぎると感じた。
  - う) その他

▽問 い3

竹島の日についてのご感想などを自由にご記入ください。

ご意見

[ ]

\*このアンケートは、会場出口付近の係員にお渡しください。  
ご協力いただきありがとうございました。

「竹島の日」条例制定から一年（論点整理）

島根県 竹島問題研究会 下條正男

1、「竹島の日」条例制定後の韓国側の動き。

3. 07. 盧武鉉大統領、「長期総合的体系的に扱う専門的機構の設置」指示。
3. 25. 国家安全保障会議常任委員会で設置を決定。
4. 08. 「企画団設置及び運営に関する規定」（大統領訓令第 147 号）
4. 20. 「東北アジアの平和のための正しい歴史定立企画団」発足。
5. 18. 「独島の持続可能な利用に関する法律」制定。
6. 28. 「独島：6 世紀以来大韓民国の領土」（英文・ハングル）発表。
7. 18. 「正しい歴史企画団」ホームページ開設。
8. 15. 盧武鉉大統領、竹島問題と教科書問題に言及せず。
9. 10. 『独島資料集 I』発刊。
11. 18. 首脳会談（釜山）で盧武鉉大統領、竹島問題、歴史教育問題に言及。
11. 19. 「独島の持続可能な利用に関する法律」施行。

2、「竹島の日」条例後の東アジア情勢。【キーワード】「靖国参拝問題」

- ① 4 月上旬。2006 年度使用の地理と公民の教科書に竹島問題記載。
- ② 韓国、侵略の美化、歪曲教科書と反発→中国に飛び火。反日デモに発展。
- ③ 韓中、日本の国連安保理、常任理事国入り反対。東南アジアに波及。
- ④ 6 月、駐日ロシア公使、北方領土問題は日本に責任。
- ⑤ 11 月 18 日、ロシア外務省、日本の歴史教科書批判。
- ⑥ 11 月 21 日、日ロ首脳会談、プーチン大統領「領土問題は第二次世界大戦の結果」
- ⑦ 06 年 1 月 31 日、プーチン大統領、ヤルタ協定（1945 年 2 月、米英ソ）に言及。
- ⑧ 06 年 2 月 7 日、小泉首相、北方領土返還要求全国大会を欠席。

3、竹島問題の論点整理

① 従来の日本の主張。外務省のホームページ（抜粋）

(1) 竹島領有に関する歴史的な事実

- (イ) 日本は古くより竹島（当時の「松島」）を認知していた。（注：長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」（1779 年）では現在の竹島の位置関係を正しく記載している。）
- (ロ) 江戸時代の初期（1618 年）、伯耆藩の大谷、村川両家が幕府から鬱陵島を拝領して渡海免許を受け、毎年、同島に赴いて漁業を行い…
- (ハ) 1696 年、鬱陵島周辺の漁業を巡る日韓間の交渉の結果、幕府は鬱陵島への渡航を禁じたが（「竹島一件」）、竹島への渡航は禁じなかった。

(二) 日本は 1905 年 (明治 33 年)、1 月の閣議決定に続き、二月の島根県告示により竹島を島根県に編入し、竹島を領有する意思を再確認している。

(2) 1905 年の日本政府による竹島編入の有効性

(3) 日本占領及び戦後処理のための諸文書の中での竹島の扱い

② 韓国側の主張。

- ① 歴史的に、現在の独島は「于山島」と呼ばれ、15 世紀に成立した「世宗実録地理志」や「東国輿地勝覽」などにも、「于山島」の記録がある。
- ② 安龍福が 17 世紀後半、日本に渡り、鬱陵島と于山島を朝鮮領と認めさせた事実が「肅宗実録」に記録されている。
- ③ 1906 年、島根県官吏が竹島と鬱陵島を視察した際、鬱島郡守の沈興澤が「独島は鬱陵島に属す」と報告している。
- ④ 第 2 次世界大戦後、連合国最高司令部の指令で、独島は韓国領土とされた。

③ 竹島問題研究会の見解。

(1) 韓国側では、竹島は「于山島」と呼ばれていたとする。その根拠は「東国文献備考」に「輿地志によれば、鬱陵島と于山島は、于山国の地であり、于山島はいわゆる日本の松島 (現在の竹島) だ」にあった。

だが「東国文献備考」の底本(「疆界考」)には、「輿地志によれば、于山島と鬱陵島は同じ島」と記されている。韓国側が論拠にしてきた文献は後世改ざんされたものであった。

(2) 「世宗実録地理志」や「東国輿地勝覽」などには確かに「于山島」の記録がある。だがそれは「太宗実録」の記事を参考にしており、于山島もその中で解釈しなければならない。その于山島には「男女併せて 86」名が住み、産物は「大竹、水牛皮、生芋」など鬱陵島と同じであった。「世宗実録地理志」や「東国輿地勝覽」などに記された于山島は、鬱陵島であった。

(3) 韓国側は竹島問題が起こると、「世宗実録地理志」や「東国輿地勝覽」にある「見える」を、鬱陵島から竹島が見えると読んで、竹島の領有権を主張した。しかし 1693 年以後、日朝間で争われた鬱陵島の帰属問題の際、朝鮮側ではそれを朝鮮半島から見た鬱陵島のこととして、鬱陵島の領有権を主張する根拠にしていた。

(4) 第 2 次世界大戦後、連合国最高司令部の指令で、一時期、竹島は朝鮮の領土とされたが、「講和条約」が発効すれば日本領になることが画定していた。そのため韓国政府は、講和条約が発効する前に「李承晩ライン」を宣言し、竹島の領有を主張したのである。だが韓国側の主張は論拠薄弱であった。

鳥取藩政資料からみた竹島問題（安龍福の来藩の記録）

鳥取県立博物館長 谷口博繁

元禄5年（1692）の遭遇

| 年             | 月日    | 事項   | 出典           |
|---------------|-------|--|--------------|
| 元禄5<br>(1692) | 2月11日 | 村川・大谷船、米子出船。   | 鳥取藩史         |
|               | 2月21日 | 朝鮮船11艘出船。  | 鳥取藩史         |
|               | 2月30日 | 隠岐福浦着。   | 鳥取藩史         |
|               | 3月23日 | 朝鮮船5艘、竹島漂着。  | 鳥取藩史         |
|               | 3月24日 | 福浦発。   | 鳥取藩史         |
|               | 3月26日 | 竹島の内いか島に着岸、砲が取られた様子を発見。  | 鳥取藩史         |
|               | 3月27日 | 竹島浜田浦で船2艘、朝鮮人20人ばかりを発見、大坂浦へ廻り、通詞と会話、朝鮮人の説明を聞く。以前備え置き of 道具・船等は朝鮮人が使用。出船。 | 鳥取藩史         |
|               | 4月5日  | 米子着。   | 鳥取藩史         |
|               | 5月2日  | 江戸和田左門、幕府朝鮮人が島から帰れば構いなしの旨、鳥取へ飛脚差し出し。                                     | 控帳元禄5年5月10日条 |
|               | 5月10日 | 和田の書状、家老受取。  | 控帳元禄5年5月10日条 |

第1回来藩

| 年             | 月日            | 事項  | 出典                 |
|---------------|---------------|---|--------------------|
| 元禄6<br>(1693) | 2月15日         | 大谷船、米子出船。   | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 2月17日         | 出雲国雲津へ着、数日滞在。   | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 3月2日          | 雲津出船、隠岐国島前に着船。  | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 3月10日         | 隠岐道後福浦へ着。   | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 3月27日         | アンピンシャン等、釜山を発、同日竹島着。  | 竹島考                |
|               | 4月16日         | 福浦を出船。  | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 4月17日         | 未刻、竹島へ着。浜田浦は朝鮮人多きに付、唐船が崎へ船繋留。   | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 4月18日         | 朝、船頭黒兵衛以下7名で西浦を搜索、その後北浦で、朝鮮漁民1名発見、その者を連れ、大天狗に廻る。そこで、通詞ともう1名を船に招き、尋問する。そして、今年の漁をあきらめ、未刻竹島を発。 | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 4月20日         | 隠岐道後福浦へ着。松江藩役人より取り調べ。朝鮮人へ役人より酒肴を贈る。   | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 4月23日         | 福浦発。  | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 4月26日         | 島前着。  | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 4月27日         | 米子着。大谷宅へ2名を置き、荒尾修理へ届ける。   | 竹島考、因府歴年大雑集        |
|               | 4月28日         | 米子へ朝鮮人連行の報、米子荒尾修理より届く。江戸へ報告の飛脚差し出し。江戸から指示ある迄、大谷宅に置き、番人を付けるよう指示。                             | 控帳4月28日条           |
|               | 5月11日         | 朝鮮人の外出無用、酒は3升以下との指示。  | 控帳5月11日条           |
|               | 5月11日         | 大谷藤兵衛、夜前鳥取に到着。  | 控帳5月11日条           |
|               | 5月12日         | 大谷藤兵衛・船頭2名、会所で事情聴取。   | 控帳5月11日条           |
|               | 5月16日         | 幕府、朝鮮人を長崎へ送るよう指示。   | 鳥取藩史               |
|               | 5月22日         | 幕府勘定頭松平美濃守へ竹島に関する尋ねへの1次回答差し出し。  | 鳥取藩史               |
|               | 5月26日         | 朝鮮人を長崎へ送るよう幕府からの指示届く。長崎への移送方法、使者等を決定。   | 控帳5月26日条           |
|               | 5月28日         | 朝鮮人鳥取移送の際、見物みだり無きよう家中及び街道筋へ触れ。  | 控帳5月28日条           |
|               | 5月29日         | 朝鮮人朝米子発足。   | 控帳5月29日条           |
|               | 6月1日          | 朝鮮人、晩鳥取着、宿荒尾大和宅。  | 控帳6月1日条            |
|               | 6月2日          | 式部・将監・日向、荒尾大和宅で朝鮮人に面会、その後会所へ。   | 控帳6月2日条            |
|               | 6月4日          | （朝鮮人、鳥取へ着）  | 因府年表同日条            |
|               | 6月5日          | 辰之助（池田清定）、朝鮮人見物の為、町会所へ入る。   | 因府年表同日条            |
|               | 6月6日          | 長崎への使者山田・平井へ、長崎奉行への書、道中條目を相談。   | 控帳6月6日条            |
|               | 6月7日          | 朝鮮人辰下刻鳥取発足。   | 控帳6月7日条            |
|               | 6月7日          | 幕府から竹島渡海に関するお尋ねへの回答、江戸へ送る。同文を使者2名へも道中へ送る。   | 控帳6月7日条<br>因府年表同日条 |
|               | 6月27日         | 幕府勘定頭松平美濃守へ第2次回答差し出し。   | 鳥取藩史               |
|               | 6月30日         | 朝鮮人長崎へ到着。   | 控帳7月18日条           |
|               | 7月18日         | 使者2名、長崎に無事到着、引渡済みの報、鳥取へ到着。  | 控帳7月18日条           |
| 7月24日         | 使者2名、鳥取へ帰着。   | 鳥取藩史  |                    |
| 7月25日         | 使者2名、鳥取へ帰着。   | 因府年表6月7日条   |                    |
| 9月19日         | 使者2名、同行医師へ褒賞。 | 控帳9月19日条  |                    |

## 第2回来藩

| 年             | 月日   | 事項  | 出典           |
|---------------|--|---|--------------|
| 元禄7<br>(1694) | 5月9日                                       | 竹島に向かうも、難風のため帰帆。この日、その旨家老に届く。                     | 控帳           |
|               | 11月26日                                     | 大谷・村川の拝借金願いを受理せず。                                 | 控帳           |
| 元禄8<br>(1695) | 春  | 竹島渡海するも、朝鮮人在島のため帰帆、途中松島で蝸を獲て帰る。                   | 鳥取藩史         |
|               | 12月24日                                     | 幕府老中より竹島に関するお尋ねあり。                                | 鳥取藩史         |
|               | 12月25日                                     | 幕府老中へ返答。  | 鳥取藩史         |
| 元禄9<br>(1696) | 1月25日                                      | 松島について幕府のお尋ねへ返答する。                                | 鳥取藩史         |
|               | 1月28日                                      | 幕府老中より、竹島渡海制禁の奉書受取。                               | 御用人日記写(鳥取藩史) |
|               | 5月20日                                      | 朝鮮船、隠岐着。  | 御用人日記6月13日条  |
|               | 6月2日                                       | 隠岐代官より鳥取に朝鮮船来航の報。                                 | 御用人日記6月13日条  |
|               | 6月4日                                       | 朝鮮船、赤碕着。  | 御用人日記6月13日条  |
|               | 6月5日                                       | 鳥取に朝鮮船赤碕着岸の報、御船手山崎主馬を赤碕に派遣。御目付平井金左衛門、郡奉行2名に作廻を指示。 | 控帳6月5日条      |
|               | 6月12日                                      | 朝鮮人の儀につき、荒尾志摩宅で寄合。                                | 控帳6月12日条     |
|               | 6月12日                                      | 朝鮮船を賀露に移し、東善寺宿所。                                  | 竹島考          |
|               | 6月13日                                      | 幕府老中大久保加賀守へ来着の届。                                  | 御用人日記6月13日条  |
|               | 6月14日                                      | 朝鮮人、青谷より賀露東善寺へ移る。                                 | 控帳6月14日条     |
|               | 6月15日                                      | 朝鮮人の儀につき、荒尾志摩宅で寄合。賀露での対応を郡奉行らに指示。                 | 控帳6月15日条     |
|               | 6月21日                                      | 賀露から町会所へ移す。                                       | 竹島考          |
|               | 6月22日                                      | 幕府老中大久保加賀守へ第2報(青谷千念寺滞在中)の届。長崎奉行諏訪兵部へ同様の報。         | 御用人日記6月22日条  |
|               | 6月23日                                      | 大久保加賀守、聞き役吉田平馬を呼び、対馬藩通辞派遣の旨を伝える。                  | 御用人日記6月22日条  |
|               | 6月24日                                      | 大久保加賀守、聞き役吉田平馬に、書付を渡す。(鳥取へ送付)                     | 御用人日記6月22日条  |
|               | 6月26日                                      | 江戸より鳥取に朝鮮人に関する飛脚差し出し。                             | 御用人日記6月26日条  |
|               | 7月16日                                      | 異国船に関する幕府奉書、御船手から浦々へ触れるよう指示。                      | 控帳7月16日      |
|               | 7月19日                                      | 藩主綱清帰国。   | 控帳7月19日      |
|               | 7月22日                                      | 青嶋の朝鮮人、和田瀬兵衛に作廻を仰せ付け。                             | 御用人日記7月22日条  |
|               | 7月24日                                      | 江戸、大久保加賀守、竹島渡海制禁の奉書を大谷・村川に達すよう、重ねて指示。             | 竹島記事         |
|               | 8月1日                                       | 米子大谷・村川へ竹島渡海制禁の奉書写を渡すよう、荒尾修理へ渡す。                  | 控帳8月1日条      |
|               | 8月1日                                       | 江戸、大久保加賀守、朝鮮人を長崎に送らず、直接帰国させるよう指示。                 | 御用人日記8月6日条   |
|               | 8月4日                                       | 鳥取、平井金左衛門・辻晚庵、青嶋へ行き、帰帆すべきを伝える。ただし、濁水により出船できず。     | 御用人日記8月6日条   |
| 8月6日          | 朝鮮船賀露を出港。平井・辻見届け。同日広沢半右衛門に賀露出港を江戸に伝える使者の命。 | 御用人日記8月6日条<br>控帳8月6日条                             |              |
| 8月18日         | 対馬藩使者・通辞、用瀬まで来るも、帰す。                       | 御用人日記8月18日条                                       |              |
| 8月19日         | 18日の用瀬の件、この日家老のもとに記録。                      | 控帳8月19日条  |              |
| 9月19日         | 賀露東善寺、青谷医師斎藤徳元へ朝鮮人応接に関し金銀を遣わす。             | 控帳9月19日条  |              |
| 11月23日        | 村川へ米子塩運上を認める。                              | 控帳11月23日条   |              |

## 享保年間の幕府取り調べ

|               |        |   |      |
|---------------|--------|---|------|
| 享保7<br>(1722) | 11月    | 幕府へ、①竹島渡海を止め、②竹島の産物は蝸とミチ油、③竹島の広さはわからない旨を回答。 | 鳥取藩史 |
| 享保9<br>(1724) | 閏4月16日 | 幕府へ、竹島渡海に関する資料を提出。                          | 鳥取藩史 |
|               | 閏4月28日 | 幕府勘定奉行寛播磨守より再度お尋ね。                          | 鳥取藩史 |
|               | 5月     | 寛播磨守へ回答提出。                                  | 鳥取藩史 |

## ●資料紹介

### <鳥取藩政資料>

旧鳥取藩(因幡・伯耆の2国:現在のほぼ鳥取県域に相当)の藩主池田家に伝わり、昭和44年に鳥取県に寄贈された膨大な資料群。

寛永9年(1632)の初代光仲から明治初年(1868)までの約240年にわたって、藩の各部署で作成された記録をはじめ、鳥取藩政全般にわたる資料。資料総数は約15,000点。平成6~8年度で『鳥取藩政資料目録』を刊行。

### <因府年表>

藩士岡嶋正義が天保13年(1842)ごろに編纂した鳥取藩の年表。

5巻…貞享3年(1686)~元禄6年(1693)

6巻…元禄7年(1694)~元禄13年(1700)

## <竹島考 上・下>

藩士岡嶋正義が文政11年(1828)に編纂した竹島(現、鬱陵島)に関する地誌。上下2巻で構成。

## <鳥取藩史>

鳥取藩政資料をもとに、明治42年から昭和8年にかけて旧藩主池田公爵家により編纂され、その後、鳥取県立図書館から昭和40年代に刊行。

「事変志一」…元禄9年(1696)の安同知(龍福)の2度目の来藩の際の鳥取藩の対応が詳しく記載。

## ●『因府年表』元禄6年(1693)

### 六月

#### 四日

米子詰の加藤郷右衛門と尾関忠兵衛が、朝鮮人アンピンシヤ(東萊の人、年42歳、和語通詞である)とトラヘ(蔚山の人、年34歳。最初から最後まで筆と硯を採らなかったため、その本当の字は伝わっていないという)、この両客を連れて鳥府(鳥取城下)へ来た。しばらく本町の町会所(2丁目にあった)に居らせることとなった。

推察するに、この度、朝鮮人を連れて来た理由は、近年、彼の国の魚船団が、大谷・村川の船が竹島に到着する前に、先に渡海して、此の方(大谷・村川)の漁業を妨げるため、両家の者は大いに迷惑し、前にもこれを呵禁(叱り、禁止した)したけれども、まったく許諾する様子はなく、以後はかえって多くの船を渡し、いよいよ狼藉の挙動が伺えるようになったので、最早、方法は無く、しいて異客等を連れ帰り、ことの次第を詳しく申し上げて、幕府の裁定を受けるためと聞いている。

#### 五日

辰之助君(藩主池田光仲の子)が、朝鮮人を見物されるため、町会所へ入られた。

#### 七日

先に異客護送の使節に任命された山田兵左衛門と平井甚右衛門は、今日、陸路で肥前国長崎に出発した。他に御医師の竹間玄碩と御徒5人、軽卒、御小人が若干名、並びに脚力、料理人までも付けられた。

#### 晦日(三十日)

彼の地(長崎)に到着し、御奉行(長崎奉行)の川口摂津守殿へ、その異客兩人を引渡し、7月25日、(鳥取に)問題なく帰着したという。

## ●『因府年表』元禄9年(1696)

### 六月

#### 四日

伯耆国赤崎灘(現、鳥取県琴浦町赤碕)へ朝鮮国の船が着岸した。(これは、)事前に隠岐国の代官より、「竹島(現、鬱陵島)へ渡海する朝鮮船32艘の内から、伯耆国へ訴訟のため、使いの船を派遣する」という連絡があった船であり、乗組員は11人であった。

当時は、幕府が隠岐島に代官を置いていた。

#### 六日

異国船が到着したため、御船手の山崎主馬に命じて、急ぎ赤崎へ派遣したところ、長尾鼻の海上で、その異国船にはたと出逢ったため、船磯より挽船を数艘出させて、青谷に引き戻し、河口に停泊させ、海上警備の船を出して、見張るように命じて、警戒させた。しかし、通訳がないため、(鳥取に)来た理由は判明しなかった。そうしている間に、御儒者の辻権之丞が派遣され、船長の安同知と李進士、その他の一人を青谷の専念寺に招き、筆談したがその主意は明白にはならなかったとのことである。また、幕府には、早速、事情が飛檄を用いて報告された。

#### 十二日

青谷に停泊していた異客等を今日、加路(現、鳥取市賀露)へ来させて、東禅寺を当分の宿舎とした。

#### 二十一日

11人の異客等を鳥府(鳥取城下)へ迎えることとなり、伝馬9疋を派遣した(安同知・李進士の兩人は、輿に乗ったようである)。戸田市右衛門、岡嶋藤兵衛、牧野市良右衛門が途中の路を護衛し、本町の町会所(その頃は2丁目にあり)に(安同知・李進士の兩人は)居ることとなり、裏判御吟味役の羽原伝五兵衛に逗留中の世話が命じられた。そうであったところ、幕府より異客をそのまま船中に居らせる様にとのご指示の内容が、わずかに聞こえてきたため、急に湖山の青島へ仮廠を設けて、この所に移した。

さて、異船までも湖中へ引き入れて繋留したので、今(『因府年表』編纂時)に青島の南片に唐人船屋の名残のあるのは、その遺事であると聞いている。

以後、幕府より命令されたことは、「近日中に対馬藩の家臣、並びに通訳を、その表（鳥取藩）へ派遣するので、その上で異客に願いの内容があるならば、肥前国長崎の津へ船を向かわせなさい。当国（鳥取藩）は異国のことを取り扱う（外国と交渉する）場所ではないことを丁寧に説明し、異議なく承諾したならば、その方（鳥取藩）の家臣、並びに宗家（対馬藩）の役人が付き添って、長崎まで送り届けなさい。もし、拒否するならば、直ちに自国へ帆を開くよう（自国へ向けて出発するよう）に、きびしく申し渡さねばならない」ことを命令された。

ある記録には、「7月帰帆」と載せている。また、この船は「加路灘より追い放ちとなった」とも見えている。実際は、そうであろうか。この度の異国船の決着は、まだ詳しく記されたものを見ていない。また、先人（の記録）には、以前のアンペンションの行動と、2つの事件を一説に混合（1つの事件として誤り、内容を混合）しているものがある。（記録を）見る者は当然ながら、情報を見極めなければならない。

## ●竹嶋之書付(現代文)

### 鳥取藩に対する幕府の問い合わせ（元禄8年(1695)12月24日）

- 一 因幡国・伯耆国に附属している竹島は、いつ頃から両国へ附属していたのか。先祖（池田光仲）が領地として与えられる（1632年）以前からのことであるのか。あるいは、その後からのことであるのか。
  - 一 竹島は、どれくらいの大きさの島であるのか。人が暮らしてはいないのか。
  - 一 竹島へ漁採のために行くのは、いつ頃出発するのか。毎年、行っているのか。または、時折行くのか。どんな猟をしているのか。船数も多く行っているのか。
  - 一 3、4年以前、朝鮮人がやって来て、猟をしている。その時、人質として2人を捕らえた。それ以前も時々来ていたのか。来たことはなく、2年間続いて来たのか。
  - 一 この1、2年は来ていないのか。
  - 一 先年、行った時には、船数はどれくらいであったか、人もどれくらい来ていたのか。
  - 一 竹島のほかに、両国（因幡・伯耆）に附属する島はあるのか。また、両国の者が、そこで漁猟・採集を行っているのか。
- 右の事項について、知りたい。書面で提出しなさい。以上。

### 幕府への鳥取藩の回答（元禄8年12月25日）

- 一 竹島は、因幡・伯耆に附属してはおりません。伯耆国米子町の人、大谷九右衛門、村川市兵衛と申す者が、海を渡って漁をしているのは、松平新太郎（池田光政）が（因幡・伯耆を）領国としていた時（1617～1632年）、御奉書（幕府老中が発行した文書）によってご指示があったと聞いております。それ以前に渡海していたこともあるように聞いておりますが、そのことについては知りません。
- 一 竹島の周囲は、約8～9里程度とのことで、人は暮らしておりません。
- 一 竹島へ猟採に行く時期は、2月、3月頃、米子から船出します。毎年行っております。あの島で蝸・みち（アシカ）の猟を行います。船数は大小2艘で行きます。
- 一 4年以前、申年に朝鮮人が、あの島へやって来た時、船頭たちが（朝鮮人と）逢ったことは、その時、ご連絡しております。翌酉年も朝鮮人がきていましたので、船頭たちは逢い、朝鮮人2人を連れ、米子へ帰りましたが、その時のご連絡し、長崎へ送りました。戌年は、難風に遭い、あの島へ着岸しなかったことをご連絡しております。今年も、渡海しましたが、異国人が数多く見えたため、着岸せずに帰る際、松島で蝸を少々採りました。右のことはご連絡しております。
- 一 申年に朝鮮人がやって来た際は、11艘の船のうち6艘が難風に遭い、残り5艘があの島に留まり、53人がいました。酉年は、船3艘、人が42人来ておりました。今年も、船数も多く、人も多く見えました。着岸しなかったため、はっきりしたことはわかりません。
- 一 竹島、松島、その他、両国（因幡・伯耆）に附属する島は、ありません。

### 《この間、幕府から鳥取藩に対し、「松島」に関する問い合わせがあったと考えられる》

### 鳥取藩が幕府へ提出した「松島」に関する覚書（元禄9(1696)年1月25日）

- 一 伯耆国米子より出雲国雲津（現、松江市美保関町）まで、道程は約10里。
- 一 出雲国雲津より隠岐国焼火山（現、西ノ島町）まで、道程は約23里。
- 一 隠岐国焼火山より同国福浦（現、隠岐の島町）まで、約7里。
- 一 福浦より松島へ、80里。
- 一 松島より竹島へ、40里。

### 別紙

- 一 松島へ伯耆国より、海路約120里あります。
- 一 松島より朝鮮へは、約80～90里もあるよう聞いております。
- 一 松島は、何れかの国に附属する島ではないと聞いております。
- 一 松島へ猟に行っているというのは、竹島へ渡海する時の道筋であるため、立ち寄って猟をしています。他領（松江藩、浜田藩など）から猟に行っているということは聞いておりません。但し、出雲国、隠岐国の者は、米子の者と同じ船で行っています。

※（ ）は、文意をわかりやすくするため、補った。



## 国際法・外交文書からみる竹島問題

### 1. 領土紛争と国際法

#### ○ 国際法とは

- ・ 国家間の関係を規律する法
- ・ 条約と国際慣習法
- ・ 国際判例は別事件を拘束せず(しかし、判例により「法」が示されることがある)

#### ○ 領土の取得に関する国際法

- ・ 割譲——講和条約による割譲、平時の売買、交換など
- ・ 先占——国家が領有意思をもって無主の土地を実効的に占有
- ・ 時効——自国の領土でない領土を領有意思をもって相当期間中断なく平穩公然に統治
- ・ 添付——自然現象又は埋め立てによる海岸線の変更
- ・ 征服——他国を攻め滅ぼして国家として消滅させてしまう場合(今日では不法)

#### ○ 国際判例を通じて示された法

- ・ パルマス島事件(アメリカ=オランダ、常設仲裁裁判所判決 1928年)  
東部グリーンランド事件(デンマーク=ノルウェー、常設国際司法裁判所判決 1933年)  
マンキエ・エクレオ事件(イギリス=フランス、国際司法裁判所判決 1953年)
- ・ 国家権能の平穩かつ継続した発現 / 実効的占有 /  
実効性を伴わない主張は争われる / 歴史的主張よりも主権行使の実効性 /  
原始的権原は当世の他の有効な権原に代替される必要 / 国家機能の発現の立証  
間接的推定よりも係争地の占有に直接関係のある証拠
- ・ クリティカルデイト(証拠許容の期日=紛争が具体的に発生した日)  
それ以降の行為(当事者の法的地位を改善するために採られたもの)は考慮されない

#### ○ 竹島領有権紛争に当てはめると?

- ・ 歴史的権原——江戸時代に日本人が官許を得て渡航
- ・ 近代国際法上の権原に置き換え——明治28年領土編入閣議決定・島根県告示(先占)  
その後、行政権の行使を継続(国家権能の平穩かつ継続した発現)
- ・ 平和条約との関係——竹島の地位に変動なし

- ・クリティカルデイト?— 1952.1.18 李ライン、日 1.28 否認(竹島領有権紛争発生)

## 2. 先の大戦と日本領土処分

- ポツダム宣言受諾により連合国が日本に残す島を決定できることになった

- ・ ポツダム宣言:「カイロ宣言の条項は履行せらるべく、また日本国の主権は、本州、北海道、九州及び四国並びに吾等の決定する諸小島に極限せらるべし」

- ・ カイロ宣言:「日本国は、また、暴力及び強欲により日本国が略取した他のすべての地域から駆逐される」「…やがて朝鮮を自由独立のものにする決意を有する」

- しかし、領土の最終決定は平和条約によるのが国際法の原則

- ・ 竹島は、併合前に朝鮮領土であったことはないので朝鮮の独立によって分離されるいわれはない。竹島は、“暴力・強欲により略取した地域”ではないので、“駆逐される”いわれはない。

- ・ それゆえ平和条約による“諸小島”の決定に際しては日本に残されることが期待された。

## 3. 平和条約締結までの間における総司令部の措置

- GHQ指令により竹島に対する行政権が停止された。

- ・ 連合国最高指令官総司令部覚書(SCAPIN)677「若干の外郭地域を政治上行政上日本から分離することに関する覚書」(1946.1.29)

- 1 日本国外のすべての地域に対し…政治上又は行政上の権力を行使すること及び行使しようとすることは、すべて停止するよう日本国政府に指令する。

- 3 この指令の目的から日本という場合は、次の定義による。…日本の範囲から除かれる地域として、(a)鬱陵島、竹島、濟州島、(b)北緯 30 度以南の琉球列島、伊豆、南方、小笠原、硫黄諸島及び大東諸島、沖ノ鳥島、南鳥島、中ノ鳥島を含むその他の外郭太平洋全諸島、(c)千島列島、齒舞群島、色丹島。

- 4 さらに、日本帝国政府の政治上、行政上の管轄権から特に除外せられる地域は、次のとおりである。(a)1914年の世界大戦以来日本が委任統治その他の方法で奪取又は占領した全太平洋諸島、(b)満州、台湾、澎湖列島、(c)朝鮮、及び(d)樺太。

- 6 この指令中の条項は、いずれもポツダム宣言第8項にある小島嶼の最終的決定に関する連合国側の政策を示すものと解釈してはならない。

- GHQ指令で操業許可水域が設定され日本人は竹島に近づけなくなった

・ 連合最高指令官総司令部覚書(SCAPIN)1033「日本の漁業及び捕鯨業に認可された区域に関する覚書」(1946.6.22)

3 (b)日本の船舶及びその乗員は、竹島から12マイル以内に近づいてはならない。またこの島とは一切接触を持ってはならない。

5 この認可は、関係地域又はその他いずれの地域に関しても、日本国家の管轄権、国際境界線又は漁業権についての最終決定に関する連合側政策の表明ではない。

○ しかし、領土の最終決定は平和条約によるのが国際法の原則

・ GHQには領土の処分権なし。

・ 指令中にも最終決定に関する連合国の政策を示すものでないと断つてある。

#### 4. サン・フランシスコ平和条約の起草過程

○ 米国の平和条約草案は当初竹島を朝鮮に含めていたが誤りに気づき訂正

・ 1947年3月から1949年11月までの米国国務省草案では、竹島は、濟州島、巨文島とともに朝鮮放棄条項に掲げられていた。

・ 1949年12月の草案では、シーボルト駐日米政治顧問が「竹島に対する日本の領土主張は古く正当であると思われる」と注意喚起したのを受けて、竹島は朝鮮放棄条項から削除された。

・ 1950年春以降、ダレス John Foster Dulles 国務長官顧問が各国との調整など実質的な起草者としての役割を担うことになり条文の構成も変わったが、竹島を日本が保持する主旨に変わりはない。

・ 米国としての正式な草案は1951年3月23日付けで作成され、各国に示された。同草案の朝鮮放棄条項は、単に「日本は、朝鮮、台湾及び澎湖諸島に対するすべての権利、権原及び請求権を放棄する」と規定していた。

○ 英国案も竹島を分離していたが米英協議を経て最終的に日本保持が確定

・ 他方、英国は、独自に対日平和条約草案を作成していた。1951年4月7日付け英国草案は、初期の米国国務省草案のように日本を囲繞する線により日本の領土的範囲を規定し、竹島をその線の外に置いていた。

・ 1951年5月ワシントンで米英の協議が行われ、米国案でいくことになった。しかし、英国は正確を期すため朝鮮放棄条項に濟州島、巨文島、鬱陵島の名称を加えることを主張し、米国は受け入れた。

・ 1951年6月ロンドンでの米英の協議の結果1951年6月14日付けで改訂米英草案が成立した。同草案の朝鮮放棄条項は、「日本国は、朝鮮の独立を承認して、濟州島、

巨文島及び鬱陵島を含む朝鮮に対するすべての権利、権原及び請求権を放棄する。」となり、この条文が最終的に1951年9月8日の「日本国との平和条約」(サン・フランシスコ平和条約)第2条(a)となった。

・ 斯くして、サン・フランシスコ平和条約上、竹島を日本が保持することが確定した。

## 5. 韓国の竹島領土要求と米国による拒否

○ 1951年7月、韓国は竹島を韓国領土とする改訂米英草案の修正を要求した

・ 1951年7月19日梁祐燦韓国大使がダレス國務長官顧問を訪問し、修正要求の文書を手交した。

<改訂米英草案>「日本国は、朝鮮の独立を承認して、済州島、巨文島及び鬱陵島を含む朝鮮に対するすべての権利、権原及び請求権を放棄する。」

<韓国の修正案>「日本国は、朝鮮の独立を承認して、朝鮮並びに済州島、巨文島、鬱陵島、独島及び波浪島を含む日本による朝鮮の併合前に朝鮮の一部であった島々に対するすべての権利、権原及び請求権を、1945年8月9日に放棄したことを確認する。」

○ 1951年8月、米国は、竹島は日本領だとして韓国の要求を拒否した

・ 7月19日付けの韓国の草案修正要求に対し、米国政府は、アチソン Dean Acheson 國務次官補が1951年8月10日付け文書で回答し、

> 「1945年8月9日の日本によるポツダム宣言受諾が同宣言で取り扱われた地域に対する日本の正式ないし最終的な主権放棄を構成するという理論を条約がとるべきだとは思わない、

> 「独島又は竹島ないしリアンクール岩として知られる島に関しては、この通常無人である岩島は、我々の情報によれば朝鮮の一部として取り扱われたことが決してなく、1905年ころから日本の島根県隠岐支庁の管轄下にある、この島は、かつて朝鮮によって領土主張がなされたとは思われない

として修正要求を拒否した。

○ 条約発効を前に李ライン設定——竹島領有権紛争の発生

・ 8月3日付け米国國務省メモには、独島と波浪島を韓国大使館に照会したところ独島は鬱陵島又は竹島の近くであろう、波浪島もそうかもしれないとのことであったとある。韓国の準備不足には、朝鮮戦争など困難な事情があったのかもしれない。しかし歴史にifはない。4でみた条約起草経過に加え、上記のことからも、平和条約

上竹島を日本が保持することが確定したことは明らかである。

- ・ なお、韓国は、上記7月19日付けの公文で、在韓日本資産の処分の日本による効力承認とマッカーサーライン(前記3のSCAPIN1033等による日本漁船の操業許可区域)の存続も要求した。前者は認められたが、後者は拒否された。

- ・ 韓国は、翌1952年4月の条約発効を前に、1月18日李承晩ラインを設定し竹島をその中に取り込んだ。日本は1月28日公海上の線引きに抗議するとともに竹島の主権僭称を否認し、ここに竹島領有権紛争が発生した。

「絵図・地図からみる竹島

－韓国側の史料を事例として－

船杉力修（島根大学法文学部・歴史地理学）

1. はじめに

・絵図：「主として日本の、近代的な測量による地図作成以前の古地図全般を指す」

→その当時の地域像、世界観を反映している

→文献だけでなく、絵図資料を用い、どの位置を認識していたのか、双方の資料で確かめる必要がある

・竹島（独島）と鬱陵島の位置【図1】

・従来の研究

塚本 幸（1980）

韓国側の主張 于山島＝竹島（独島）とする

→古地図にどのように記載がなされているか

于山島（A）鬱陵島の西側（朝鮮半島と鬱陵島の間）に描いている【図2】

→鬱陵島それ自体を誤って描いているもの

（B）鬱陵島北東1海里（1.8km）の竹島

（＝竹嶼）を描いたもの【図3・4】

金 学俊（2004）

『新增東国輿地勝覧』所収「八道総図」【図5】

地図で誤った表記＝地図製作の未熟のため

現地に行き行って見なかった文官たちが地図製作

しかし2つの島があり、ともに朝鮮領であることを明らかにする

2つの島は天気が晴ればはっきり見え、風が穏やかならば2日で到達できる

朝鮮後期に製作された他の地図

朝鮮図：「東国地図」（1700年代初、鄭尚驥）、「海左全図」（1822年）

「朝鮮全図」（1846年、金大建）

郡県別地図：「輿地図」（肅宗17世紀後期～英祖18世紀前期）

于山島を鬱陵島の東に正確に描いている

朝鮮の領土であることを明確にする

→果たしてこの見解は妥当であるのか、検討が必要

→両者の見解を整理するためには、絵図を悉皆的に整理・検討する必要がある

→従来の研究は日本側の絵図の検討がほとんど

：日本側の絵図の検討は別の機会に譲りたい

→韓国（朝鮮時代）側の絵図についても悉皆的に検討する必要がある

・資料

李燦（1991）：『韓国の古地図』（韓文）、汎友社

韓国に所蔵される朝鮮時代の絵図を系統的に紹介

→時代を通じて、竹島、鬱陵島についての記載を検討することができる【表参照】

李燦氏

1923年黄海道延白で生まれる

ソウル大学校師範大学地理学科卒業

米国ルイジアナ州立大学校大学院で碩士（修士）・博士学位（地理学）取得

ソウル大学校師範大学・教育大学院・社会科学大学教授歴任

ソウル大学校教育大学院院長歴任

米国シカゴ大学客員教授

大韓地理学会会長、韓国科学史学会会長、社団法人韓国測地学会会長、

韓国文化・歴史地理学会会長、大韓民国学術院会員

2. 韓国古地図にみる鬱陵島・于山島

・「混一疆理歴代国都之図」：1402年朝鮮王朝下で作成、ユーラシアとアフリカの全図  
鬱陵島の記載あり

→15世紀には鬱陵島の地理的認識はあり。于山島はない。

・16世紀

天下図（世界図）

「混一歴代国郡都疆理地図」：于山島のみ

→鬱陵島と于山島とを同一視している可能性がある

「華東古地図」：于山島（西）・鬱陵島（東）の記載

→その一方で、鬱陵島・于山島二島が存在するという認識がある

→しかし位置を検討すると、于山島は朝鮮半島と鬱陵島との間に記載がみられ、地理的混乱がみられる（実際に島はない）

朝鮮全図の刊行：16世紀中期から

『新增東国輿地勝覧』所収「八道総図」：官撰地図【図5】

：于山島（西）・鬱陵島（東）の記載

\*「八道総図」（17世紀末期）のなかでも鬱陵島のみ記載あり

「朝鮮全図」：鬱陵島を「鬱山島」と記す【図6】

：于山島（北）・鬱陵島（南）の記載

その他の絵図では両島とも記載されず

→鬱陵島・于山島の存在は認識しつつあるものの、両島の位置は東西だけでなく、南北にもあり、地理的かなり混乱がみられる

→官撰地図、しかも木版として刊行された「八道総図」が国内での両島に関する地理的認識の拡大につながったと考えられる

・17世紀

西欧式世界地図の登場

「坤輿万国全図」1602年原図、1708年筆写：両島の記載なし【図7】

→アジアに進出した西欧人には両島とも地理的認識はなかった

「天下都地図」（万国地図）1623年原図、1770年代筆写【図8】

：「坤輿万国全図」を筆写したもの

日本海上に「鬱陵」と地名のみを記載。

日本海（＝坤輿万国全図）を「小東海」とする

日本列島の記載：九州・四国がなく一島とする

→朝鮮半島の地理的情報を新たに書き加えた可能性

→鬱陵島に関する地理的認識はあった

#### 朝鮮全図

鬱陵島のみ記載：事例が少なくなる

于山島（西）・鬱陵島（東）の記載

：八道総図の系統

于山島（北）・鬱陵島（南）の記載

：「朝鮮八道古今総覧図」（金壽弘1601～81）の系統 【図9】

※金壽弘：戸曹参判（朝鮮朝廷の役職の一つ）を歴任

地図に歴史的事実を書き込んでいる

→両方とも木版本として刊行され、二島が存在するという認識が広がる

しかし位置はまだ混乱がみられ、確定されていなかった

※1696年安龍福の証言（1728年『肅宗実録』）

于山島＝松島、鬱陵島・于山島は朝鮮領である

#### ・18世紀

##### 朝鮮全図

「東国地図」の刊行（18世紀中期）

地図制作者鄭尚驥（チョン・サンギ）（1678～1752）

縮尺の概念を地図に適用し、距離が正確に記載されるように修正された

●鬱陵島（西）・于山島（東）の記載となる【図10】

しかし于山島は鬱陵島のすぐ脇に記載される

＝于山島が独島の位置に正確に記載されているわけではない

「輿地図」、「海東地図」の刊行（18世紀中期～後期）

鄭尚驥の地図の影響を受ける

天下図、中国図、日本国図、琉球国図、道別図などを収録

＝国際的な地図帳の刊行

「輿地図」所収地図

「我国摺図」：

鬱陵島（西）・于山島（東）の記載<鬱陵島のすぐ脇>

「朝鮮・日本・琉球国図」：

●日本列島の記載：朝鮮半島・対馬の南部に描かれる【図11】  
木版本でも刊行される

※参考『朝鮮地図並八道天下地図』所収日本国図【図12】

→かなり不正確で、日本の位置を正しく認識していない

→朝鮮半島東部の日本海も正しく認識していない可能性あり

「海東地図」所収地図：鬱陵島の絵図が収録される【図13】

●地形や河川、船の停泊場所、集落跡、石碑、墓地、竹田の分布

→集落跡、墓地などはかつての日本人の集落跡とみられる

東に「刻石立標 倭船倉可居」

※1696年幕府：鬱陵島への渡航を禁じる

地図の上には鬱陵島の産物を記している

→島を実際に踏査して作成したと考えられる

●鬱陵島東部（すぐ脇の島）の島に「所謂于山島」と記す

→実際の調査をふまえ、この時期によく「于山島」の比

定が行われる＝現在の鬱陵島脇の竹嶼（竹島）にあたる

→調査の結果、朝鮮全図も「于山島」の表記が鬱陵島の東となつたと考えられる

→しかし刊本の絵図では、一島のみや二島でも位置が異なるものがみられた

→記載が正しく絵図がみられたものの、まだ地理的混乱がみられた

※『東国文献備考』1770年

「輿地志に云う、鬱陵・于山は皆于山国の地で、于山は即ち倭の所謂松島である」

#### ・19世紀

##### 朝鮮全図

「東国地図」の影響を受けた絵図が引き続き刊行された

鬱陵島（西）・于山島（東）の記載<鬱陵島のすぐ脇>

その一方で19世紀初期でも位置が異なる木版本が刊行されていた

「大東輿地図（デドンヨジド）」の刊行

金正浩（キムジョンホ）の作成

1834年に金正浩が発刊した青邱図（チョングド）を発展させて作成

約16万分の1の地図、22帖で構成される：大縮尺の地図

山と河川の詳細な記載、

道路を直線で表記し、距離が分かるようにした

行政区域の境界を記す

都邑（官衙）・城郭・鎮堡・駅・倉庫・牧所（牧場）・烽燧（のろし）・陵寢（王陵）等の記載

●鬱陵島・于山島の記載

ソウル大学校奎章閣所蔵本（木版本）【図14】

鬱陵島の記載あり

「海東地図」所収絵図より、山の稜線・河川が記されている

→さらに現地調査をした可能性がある

しかし于山島の記載はない

国立国会図書館所蔵本の筆彩本【図15】

鬱陵島：ソウル大学所蔵本より記載内容（説明）が多い

于山島の記載あり：鬱陵島の東側そばに描かれる

南北に長く描かれる

→現在の鬱陵島脇の竹嶼（竹島）にあたと考えられる

・19世紀末期～20世紀初期

「鏤域地図」所収「大朝鮮国全図」：19世紀後期【図16】

鄭尚驥の「東国地図」の影響

鬱陵島（西）・于山島（東）の記載<鬱陵島のすぐ脇>

于山島の北側には「東洋中日本諸島」とあり

→●于山島（＝竹嶼）の東側は日本の諸島であることを明記

＝于山島（＝竹嶼）の東側が朝鮮と日本との境界

※1876（明治9）年日朝修好条規の締結

※鬱陵島の空島政策：1417年～1881年

「鬱陵島外図」「鬱陵島内図」：1882年頃 李奎遠による鬱陵島調査【図17】

「鬱陵島檢察使日記」：「松竹于山等の島、僑寓の諸人、皆傍近の小島を以て之に当てる」

「鬱陵島外図」の記載の属島：東側の「島頂」と「竹島」のみ

→現在の地図に比定すると「島頂」＝観音島、「竹島」＝竹嶼となる

（下條、2004、pp.107-112）

「大韓全図」大韓帝国の学部編輯局の編纂：1899年【図18】

経緯度の表記

鬱陵島（西）・于山島（東）の記載<鬱陵島のすぐ脇>

※日清戦争（1894～95）

※『大韓地誌』（1899年）

：鬱陵島（東経130度）を朝鮮の東限とする（下條2004、p.115）

※現在の竹島（独島）の経度：東経131度52分

「大韓輿地図」大韓帝国の学部編輯局の編纂：1900年頃【図19】

上記「大韓全図」の記載を踏襲

鬱陵島（西）・于山島（東）の記載<鬱陵島のすぐ脇>

→鬱陵島の南部には島の記載があるが、石島の記載はない

※大韓帝国勅令41号（1900年10月）：

鬱陵島を江原道の郡に昇格、同時に石島（＝独島？）も韓国領とする

### 3. おわりに

・朝鮮古地図にみる鬱陵島・于山島

16世紀まで 鬱陵島＝于山島（一島）

鬱陵島・于山島二島の存在：于山島（西）・鬱陵島（東）

→日本海中に島が存在していたことは認識していたものの、正確な位置については認識していなかった

17世紀 鬱陵島＝于山島（一島）は次第に消える

鬱陵島・于山島二島の存在：于山島（西）・鬱陵島（東）

于山島（北）・鬱陵島（南）

→日本海中に二島が存在していたことは認識していたものの、正確な位置については認識していなかった

18～19世紀 鬱陵島・于山島二島の存在：鬱陵島（西）・于山島（東）

于山島は鬱陵島の東岸のすぐそばに比定

→鬱陵島の調査によって、于山島の位置が比定される

その一方で、島の位置に混乱がみられる絵図も引き続き刊行された

→18世紀までは日本の位置や形も正確に捉えていなかった

→于山島は鬱陵島東岸の島で、現在の竹嶼と考えられる

19世紀末期～20世紀：鬱陵島（西）・于山島（東）

→経緯度の入った地図が刊行されるが、于山島の比定場所はそれまでと変わらなかった

・朝鮮地誌にみられる于山島（下條2004、p.108）

「朝鮮社会には「于山島は日本の松島である」とする常識が拡散していった」

「その常識と、現実の地理については別物である」

「于山島が実際どこにあるのかは、当時、誰も関心をもって調査していなかったのである」

→17世紀までは位置を比定していなかった

18世紀になりようやく位置が比定されるが、鬱陵島東岸に浮かぶ小島（＝竹嶼）としており、その比定場所は20世紀に入っても変わっていなかった

→朝鮮は、地図上では、現在の竹島（当時松島）の位置を正確に把握していないし、朝鮮領としても認識していなかったことが分かる

### <文献>

川上健三（1966）：『竹島の歴史地理学的研究』、古今書院

塚本孝（1980）：竹島関係旧島取藩文書および絵図（下）、レファレンス

昭和60年5月号

李 燦（1991）：『韓国の古地図』（韓文）、汎友社

吉田光男監修（1994）：『大東輿地図』（復刻、初版1936年）、草風館

内藤正中（2000）：『竹島（鬱陵島）をめぐる日朝関係史』、多賀出版

浜田市教育委員会編（2002）：『石見学ブックレット3 八右衛門とその時代』、浜田市教育委員会

楊 普景（2003）：15～17世紀、朝鮮の世界地図と世界認識、21世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」15・16・17世紀成立の絵図・地図と世界観ニューズレター第3号

楊 普景・渋谷鎮明（2003）：日本に所蔵される19世紀朝鮮全図に関する書誌学的研究—『大東輿地図』および関連地図を中心に—、歴史地理学45-4

下條正男（2004）：『竹島は日韓どちらのものか』、文藝春秋

金 学俊（2004）：『独島/竹島 韓国の論理』、論創社

表 韓国古地図にみえる于山島と鬱陵島

| 絵図種類                                     | 番号              | 絵図名                  | 著者           | 成立年代            | 所蔵                          | 出典                           | 于山島   | 鬱陵島                 | 備考  |
|--|-----------------|----------------------|--------------|-----------------|-----------------------------|------------------------------|-------|---------------------|---|
| 天下図<br>world maps                        | 1               | 混一地理代国都之図            | 権近・金士衡・李茂・李善 | 1402年           | 李燦                          | 李燦(1991):『韓国の古地図』5           | ×     | ○                   | 龍谷大学本の模写  |
|  | 2               | 混一歴代国都地理地図           | 不明           | 16世紀中期          | ソウル・仁村記念館                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』11-2        | ○     | ×                   |   |
|  | 3               | 華東古地図                | 不明           | 16世紀            | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』3-4         | ○(西)  | ○(東)                | 字が欠けている   |
|  | 4               | 坤輿万国全図               | 不明           | 1602年原図 1708年写  | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』18          | ×     | ×                   |   |
|  | 5               | 天下都地図                | 艾儒略          | 1623年原図 1770年代写 | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』23          | ×     | ○                   |   |
|  | 6               | ●天下輿地図               | 不明           | 1747年           | 崇實大学校博物館                    | 李燦(1991):『韓国の古地図』16          | ×     | ×                   | 木版本   |
|  | 7               | 天下輿地図                | 不明           | 1747年           | 崇實大学校博物館                    | 李燦(1991):『韓国の古地図』17          | ×     | ×                   | 江原道の東に島の記載あり                                      |
|  | 8               | 天下大槩一覽之地図            | 不明           | 18世紀初期          | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』8-9         | ○(西)  | ○(東)                | 「朝鮮総督府図書館」蔵書印あり                                   |
|  | 9               | ●輿地全図                | 不明           | 18世紀末期          | 崇實大学校博物館                    | 李燦(1991):『韓国の古地図』11          | ×     | ○                   | 木版本   |
| 朝鮮全図<br>道別図<br>Korea and provincial maps | 10              | 朝鮮全図                 | 不明           | 16世紀中期          | 尹炯斗                         | 李燦(1991):『韓国の古地図』40          | ○(北)  | ○(南)                | 筆写本 鬱陵島を「鬱山島」と記す                                  |
|  | 11              | ●朝鮮圖(帖『広輿圖』)         | 羅洪先(明人)      | 16世紀後期          | 一                           | 李燦(1991):『韓国の古地図』挿図2         | ×     | ×                   | 木版本   |
|  | 12              | ●朝鮮八道輿地之図            | 不明           | 16世紀後期          | 李燦                          | 李燦(1991):『韓国の古地図』44          | ×     | ×                   | 木版彩色本   |
|  | 13              | ●八道総図(帖『東覽圖』)        | 朝鮮胡官撰        | 1530年           | 李燦                          | 李燦(1991):『韓国の古地図』41          | ○(西)  | ○(東)                | 木版本   |
|  | 14              | 朝鮮方域之図               | 不明           | 1557年頃          | 韓国・国史編纂委員会                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』40          | ×     | ×                   | 木版本   |
|  | 15              | 江原道(帖『八道地図』)         | 不明           | 17世紀初期          | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』109         | ×     | ○                   |   |
|  | 16              | 八道総図(帖『朝鮮写古地図帖』)     | 不明           | 17世紀前期          | 個人蔵                         | 坂本孝(1980):レファレンス             | ○(西)  | ○(東)                | 「朝鮮総督府図書館」蔵書印あり                                   |
|  | 17              | ●朝鮮八道古今総覧之図          | 不明           | 17世紀後期          | 尹炯斗                         | 李燦(1991):『韓国の古地図』50          | ○(北)  | ○(南)                | 「于山」は島ではなく、地名(国名)                                 |
|  | 18              | 海東八道烽火山岳地図           | 不明           | 17世紀後期          | 富麗大学校図書館                    | 李燦(1991):『韓国の古地図』54          | ○(西)  | ○(東)                | 木版本   |
|  | 19              | ●八道総図(帖『天下総図』)       | 不明           | 17世紀末期          | 尹炯斗                         | 李燦(1991):『韓国の古地図』挿図5         | ×     | ○                   | 木版本 天下図は『韓国の古地図』17所収                              |
|  | 20              | ●江原道(帖『東覽圖』)         | 不明           | 17世紀頃           | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』挿図16        | ○(西)  | ○(東)                | 木版本   |
|  | 21              | ●朝鮮八道古今総覧圖           | 金壽弘          | 1673年           | 崇實大学校博物館                    | 李燦(1991):『韓国の古地図』46          | ○(北)  | ○(南)                | 木版本 「鬱陵島方百里」とあり                                   |
|  | 22              | 朝鮮八道古今総覧圖            | 金壽弘          | 1673年           | 許英桓                         | 李燦(1991):『韓国の古地図』47          | ○(北)  | ○(南)                | 筆写本 「鬱陵島方百里」とあり                                   |
|  | 23              | 八道総図                 | 不明           | 1683年           | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』49          | ○(西)  | ○(東)                |   |
|  | 24              | ●朝鮮全図                | 不明           | 18世紀初期          | 尹炯斗                         | 李燦(1991):『韓国の古地図』52          | ×     | ○                   | 木版本   |
|  | 25              | 江原道(帖『東国地図』)         | 鄭尚蟻          | 18世紀中期          | 李燦                          | 李燦(1991):『韓国の古地図』69          | ○(北東) | ○(西)                | 于山島は文字のみ  |
|  | 26              | 八道総図(帖『朝鮮地図並八道天下地図』) | 不明           | 18世紀中期          | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』128         | ○(西)  | ○(東)                |   |
|  | 27              | 東国八道大総図(帖『輿地攷究圖譜』)   | 不明           | 18世紀中期          | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』133         | ×     | ○                   |   |
|  | 28              | 朝鮮全図                 | 不明           | 18世紀後期          | 崇實大学校博物館                    | 李燦(1991):『韓国の古地図』58          | ○(東)  | ○(西)                |   |
|  | 29              | ●江原道(帖『輿地図』)         | 不明           | 18世紀後期          | 李燦                          | 李燦(1991):『韓国の古地図』121         | ○(南)  | ○(北)                | 木版本、于山島は「于山島」とあり                                  |
|  | 30              | 朝鮮八道地図               | 不明           | 18世紀末期          | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』59          | ○(北東) | ○(西)                |   |
|  | 31              | 東国地図                 | 不明           | 18世紀末期          | 崇實大学校博物館                    | 李燦(1991):『韓国の古地図』61          | ×     | ○                   |   |
|  | 32              | 我國總圖(帖『輿地図』)         | 不明           | 18世紀末期          | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』74          | ○(東)  | ○(西)                |   |
|  | 33              | 朝鮮・日本・琉球國圖(帖『輿地図』)   | 不明           | 18世紀末期          | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』75          | ×     | ○                   |   |
|  | 34              | 江原道(帖『輿地図』)          | 不明           | 18世紀末期          | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』80          | ○(北東) | ○(西)                | 于山島は「于山島」とあり                                      |
|  | 35              | 朝鮮全図(帖『海東圖』)         | 不明           | 18世紀末期          | 湖麗美術館                       | 李燦(1991):『韓国の古地図』94          | ○(東)  | ○(西)                |   |
|  | 36              | ●東国地図                | 不明           | 19世紀初期          | 尹炯斗                         | 李燦(1991):『韓国の古地図』51          | ○(西南) | ○(東北)               | 木版本 于山島を「于山」と記す 鬱陵島に「名于山国方百里」とあり                  |
|  | 37              | 朝鮮八道統合圖              | 不明           | 19世紀初期          | 李燦                          | 李燦(1991):『韓国の古地図』53          | ×     | ○                   |   |
|  | 38              | 朝鮮全図                 | 不明           | 19世紀初期          | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』55          | ○(東)  | ○(西)                |   |
|  | 39              | 朝鮮全図                 | 不明           | 19世紀初期          | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』56          | ○(東)  | ○(西)                | 江原道杆城と萊州の間の海岸に「竹島」あり(現在も杆城の東南にあり) 「朝鮮総督府図書館」蔵書印あり |
|  | 40              | ●海左全図                | 不明           | 19世紀前期          | 李燦                          | 李燦(1991):『韓国の古地図』57          | ○(東)  | ○(西)                | 木版本   |
|  | 41              | 東国全図(帖『東国地図』)        | 不明           | 19世紀前期          | 湖麗美術館                       | 李燦(1991):『韓国の古地図』66          | ○(東)  | ○(西)                |   |
|  | 42              | 江原道(帖『東国地図』)         | 不明           | 19世紀前期          | 湖麗美術館                       | 李燦(1991):『韓国の古地図』90          | ○(東)  | ○(西)                |   |
|  | 43              | 朝鮮全図(帖『海東輿地図』)       | 不明           | 19世紀前期          | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』101         | ×     | ○                   |   |
|  | 44              | 江原道(帖『海東輿地図』)        | 不明           | 19世紀前期          | 韓国・国立中央図書館                  | 李燦(1991):『韓国の古地図』103         | ○(東)  | ○(西)                | 江原道杆城の沖に「竹島」あり                                    |
| 45                                       | ●抽珍八道地図         | 不明                   | 19世紀前期       | 尹炯斗             | 李燦(1991):『韓国の古地図』146        | ○(南)                         | ○(北)  | 銅板本                 |   |
| 46                                       | ●大朝鮮全図(帖『鐵城地図』) | 不明                   | 19世紀後期       | 尹炯斗             | 李燦(1991):『韓国の古地図』147        | ○(東)                         | ○(西)  | 銅板本                 |   |
| 47                                       | ●江原道(帖『鐵城地図』)   | 不明                   | 19世紀後期       | 尹炯斗             | 李燦(1991):『韓国の古地図』152        | ○(東)                         | ○(西)  | 銅板本                 |   |
| 48                                       | 東国八道輿地図         | 不明                   | 1819年        | 李燦              | 李燦(1991):『韓国の古地図』45         | ×                            | ×     |                     |   |
| 49                                       | 靑邱圖             | 金正浩                  | 1834年        | 韓国・国立中央図書館      | 李燦(1991):『韓国の古地図』143        | —                            | —     |                     |   |
| 50                                       | 朝鮮全図            | 金大建                  | 1846年        | 不明              | 金学俊(2004):『独島/竹島 領土の論議』p.59 | —                            | —     |                     |   |
| 51                                       | ●大東輿地図*         | 金正浩                  | 1861年        | ソウル大学校奎章閣       | 李燦(1991):『韓国の古地図』135        | ×                            | ○     | 木版本、「朝鮮総督府図書館」蔵書印あり |   |
| 52                                       | 東輿圖             | 金正浩                  | 1860年代       | ソウル大学校奎章閣       | 李燦(1991):『韓国の古地図』140        | —                            | —     |                     |   |
| 53                                       | ●大韓輿地全図         | 金正浩                  | 1860年代       | 崇實大学校博物館        | 李燦(1991):『韓国の古地図』60         | ×                            | ○(東)  | 木版本                 |   |
| 54                                       | ●大韓全図           | 学部編輯局                | 1899年        | 李燦              | 李燦(1991):『韓国の古地図』155        | ○(東)                         | ○(西)  | 銅板本                 |   |
| 55                                       | ●大韓輿地全図         | 学部編輯局                | 1900年頃       | 李燦              | 李燦(1991):『韓国の古地図』154        | ○(東)                         | ○(西)  | 銅板本                 |   |
| 56                                       | ●大韓帝國地図         | 玄公肇                  | 1908年        | 尹炯斗             | 李燦(1991):『韓国の古地図』156        | ×                            | ○     | 銅板本、地図の記載読めず        |   |
| 郡県図<br>county maps                       | 57              | 鬱陵島(帖『海東地図』)         | 不明           | 18世紀中期          | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』195         | ○(東)  | ○(西)                |   |
|  | 58              | 鬱陵島(帖『朝鮮輿誌』)         | 不明           | 19世紀            | (国立国会図書館)                   | 坂本孝(1980):レファレンス             | ○(東)  | ○(西)                | 「京城帝國大学図書」蔵書印あり                                   |
|  | 59              | 鬱陵島地図                | 朴錫昌ほか        | 1831年           | 不明                          | 下條(2004):『竹島は日韓どちらのものか』p.110 | —     | —                   |   |
|  | 60              | 鬱陵島外図                | 李善道          | 1882年頃          | ソウル大学校奎章閣                   | 李燦(1991):『韓国の古地図』227         | ×     | ○                   |   |

凡例 ○: 絵図に記載あり ×: 絵図に記載なし 一: 参考文献に記載なし(未見) ●: 木版本、銅板本 \* 吉田光男(1994):『大東輿地図』、草履閣より確認、国立国会図書館蔵書本には鬱陵島の東に于山島記載あり  
 文献 李燦(1991):『韓国の古地図』(韓文)、汎友社  
 塚本孝(1980):『竹島関係旧島取藩文書および絵図(下)、レファレンス昭和60年5月号  
 下條正男(2004):『竹島は日韓どちらのものか』、文藝春秋  
 金学俊(2004):『独島/竹島 韓国の論議』、論創社

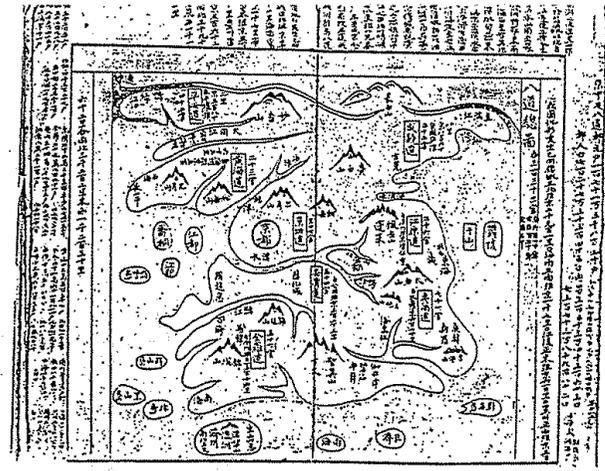


図2 朝鮮写古地図帖 八道総図 (塚本 1980)



図3 朝鮮輿誌 琉球島図 (塚本 1980)

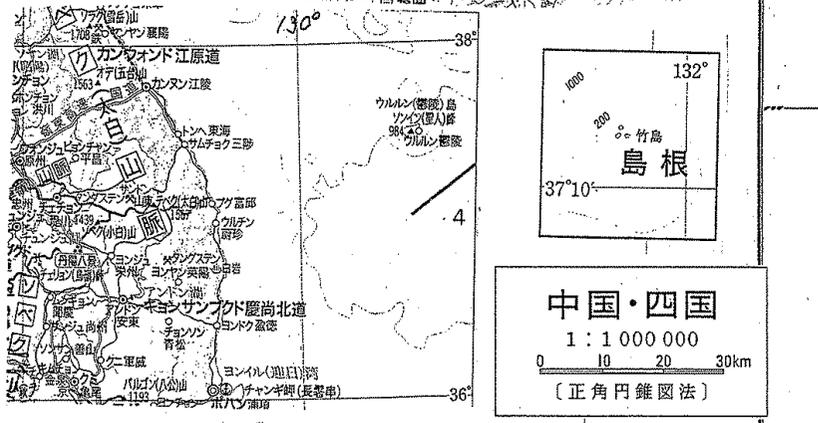


図1 竹島・ウルン島  
位置  
『基本地図帳』ニ寄与

**鬱陵島**

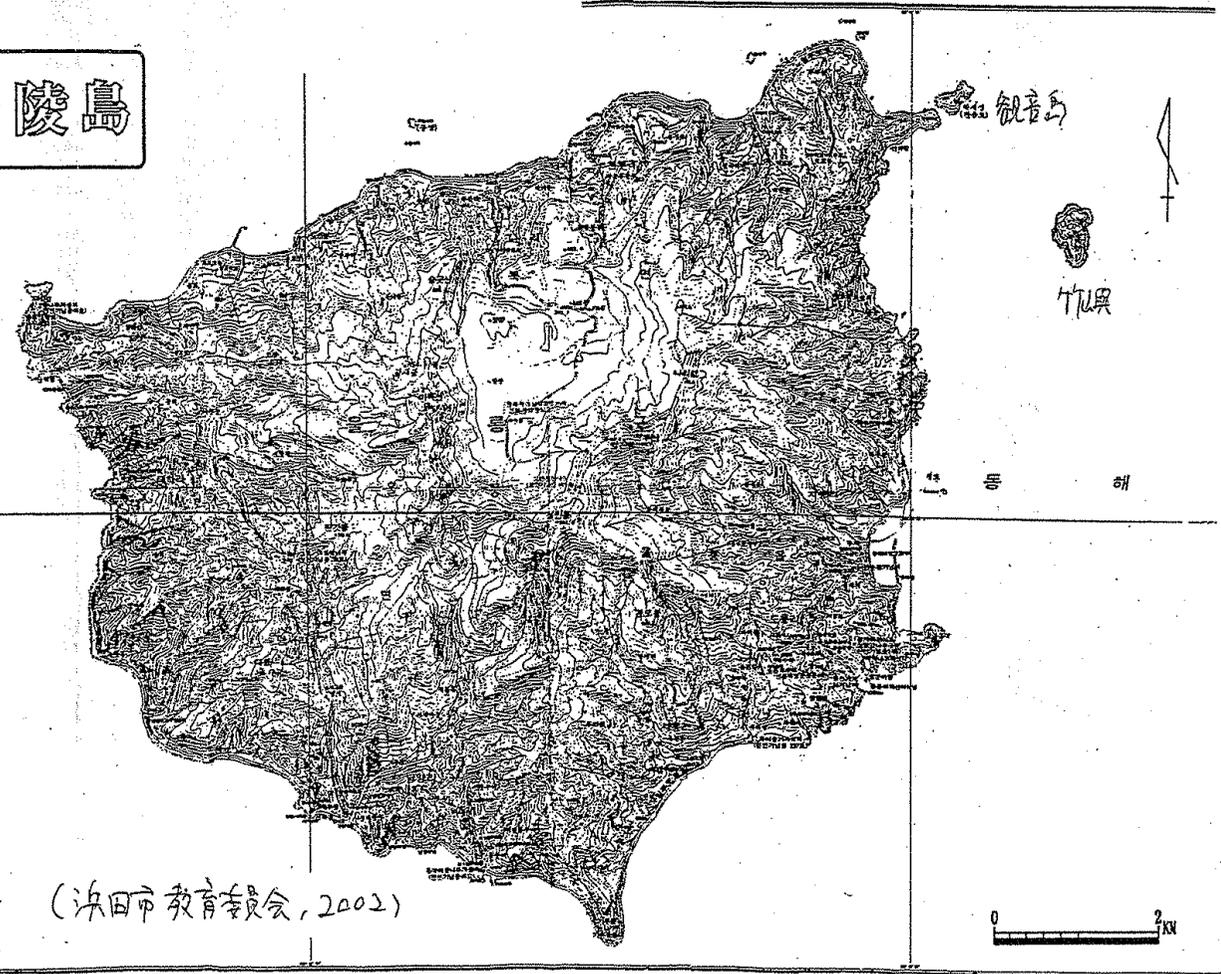
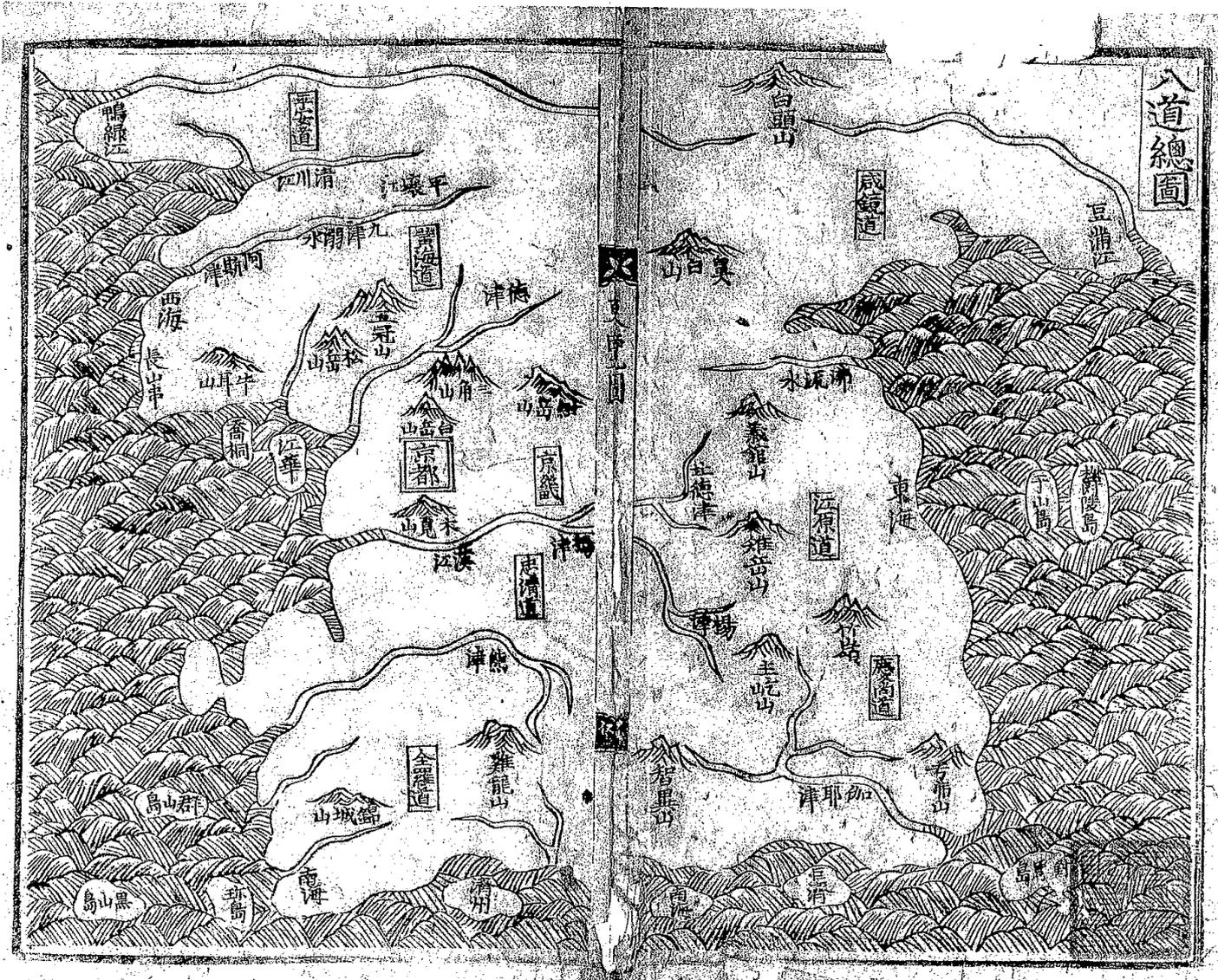


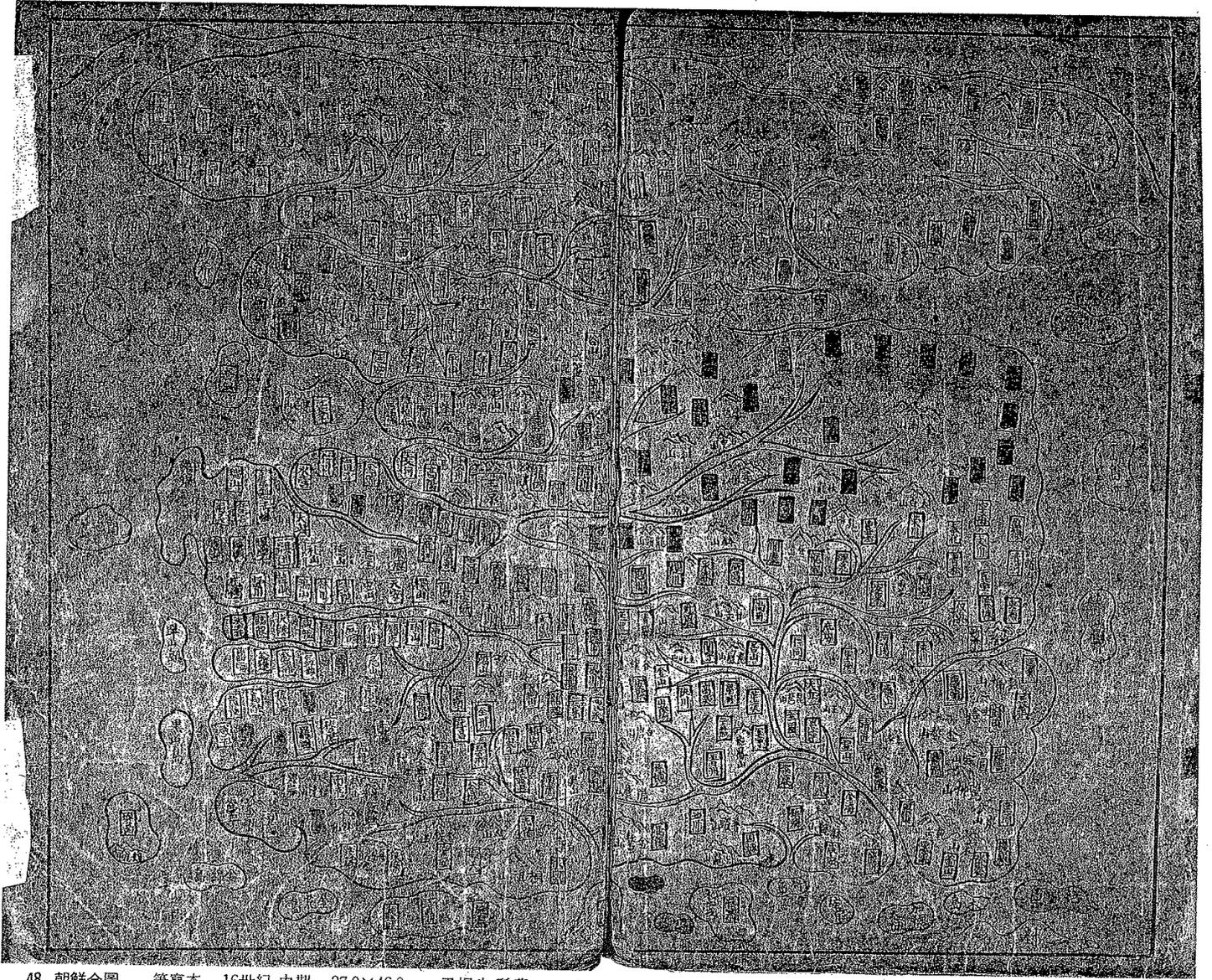
図4 (浜田市教育委員会, 2002)



41. 八道總圖 (帖東覽圖) 木版本. 1530年. 朝鮮朝官撰. 27.0×34.2cm. 李燦 所藏.  
 P'aldo Ch'ong-do (Tongnam-do) Map of Eight-Provinces (Korea) Woodblock Print  
 Chosŏn Dynasty Government 1530 A.D. 27.0×34.2cm Lee Chan collection

5

1/0.3



48. 朝鮮全圖 筆寫本、16世紀中期、37.0×46.0cm、尹炯斗所藏。

48. Chosŏn Chŏn-do *Map of Korea* Manuscript map Mid-16th century  
37.0×46.0cm Yoon Hyung-doo collection



圖7

19. 坤輿萬國全圖 部分  
Detail of Korea in the Plate No. 18

18. 坤輿萬國全圖 彩色寫本, 마테오 리치, 1602年原圖, 1708年筆寫, 172.0×531.0cm, 寶物 849號, 서울大學校 博物館 所藏.  
Konyō Manguk Chōndo *Map of the World* Manuscript copy in color Original map by Matteo Ricci in 1602 A.D.  
Reproduced in Korea, 1708 A.D. 172.0×531.0cm Treasure No.849 Seoul National University Museum

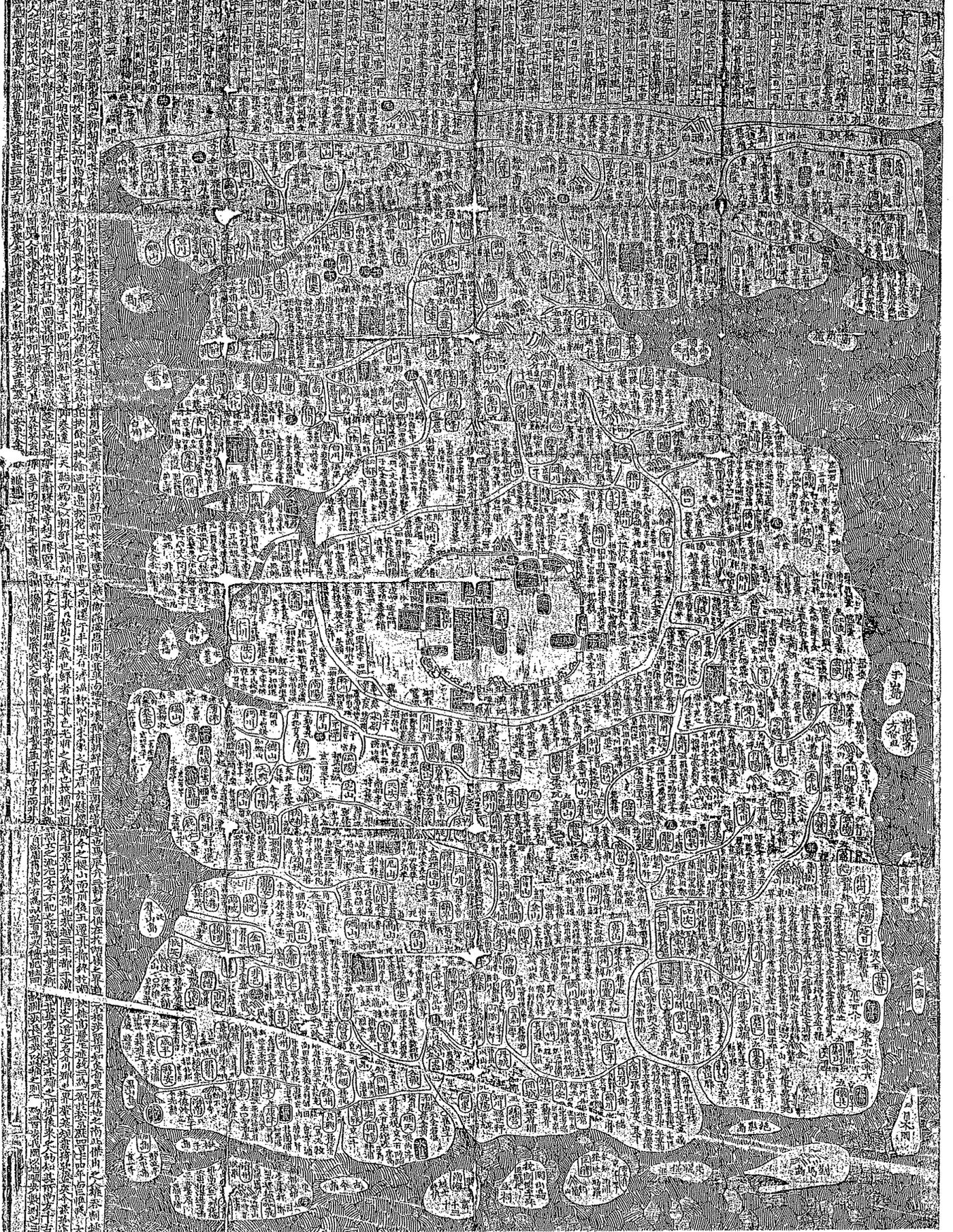


圖8

23. 天下都地圖 [萬國全圖] 彩色寫本, 艾儒略原圖 1623年, 1770年代筆寫, 50.5×103.0cm, 서울大學校 奎章閣 所藏.  
Chōnha To-chido (Manguk Chōn-do) *Map of the World* Manuscript map in color  
Original map by Giulio Aleni in 1623, Copied in ca. 1770 A.D. 50.5×103.0cm  
Kyujanggak Archives, Seoul National University

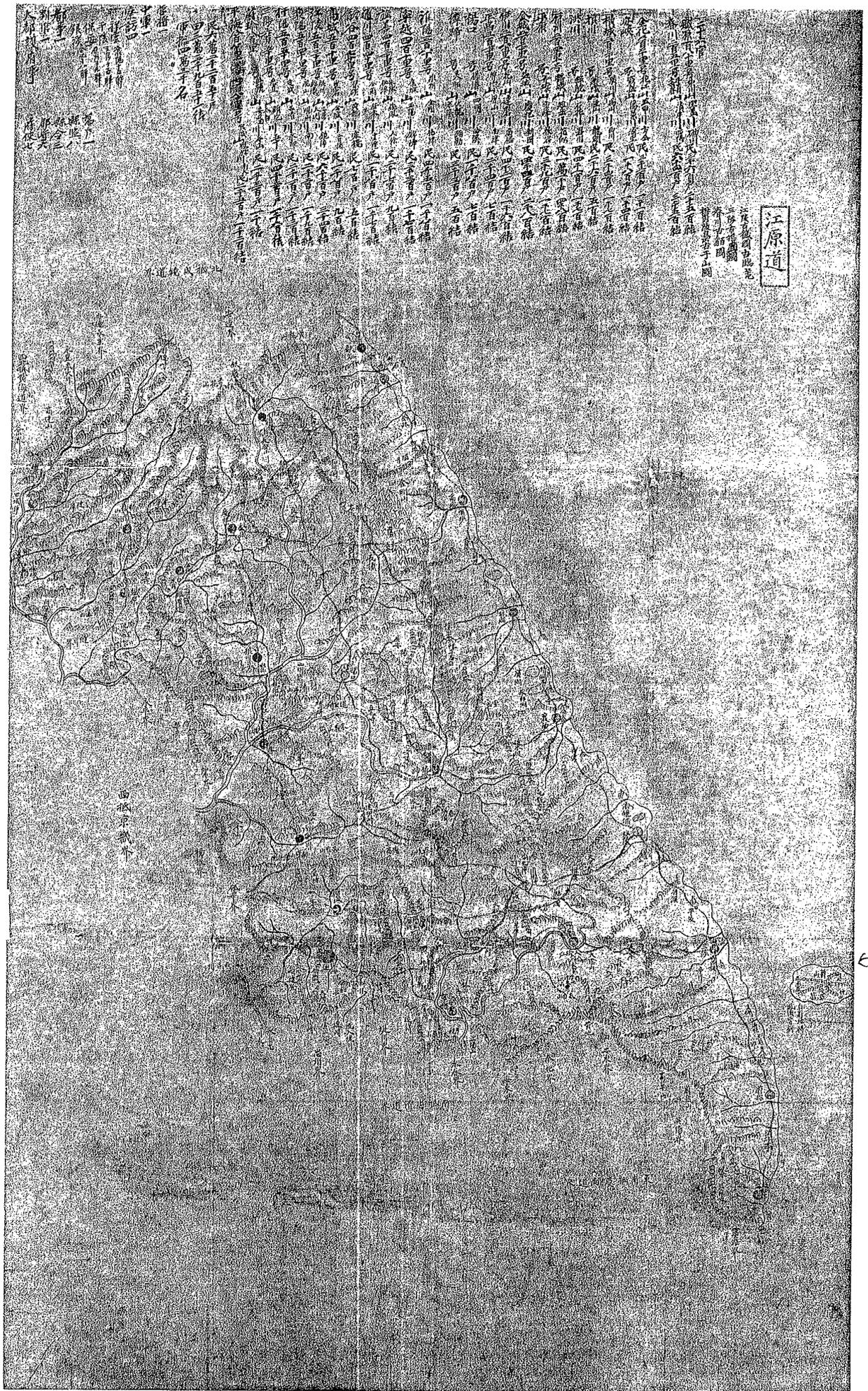
Na.4

朝鮮八道古今覽圖



46. 朝鮮八道古今覽圖 木版本。金壽弘。1673年。137.5×107.0cm。崇實大學校 博物館 所藏。

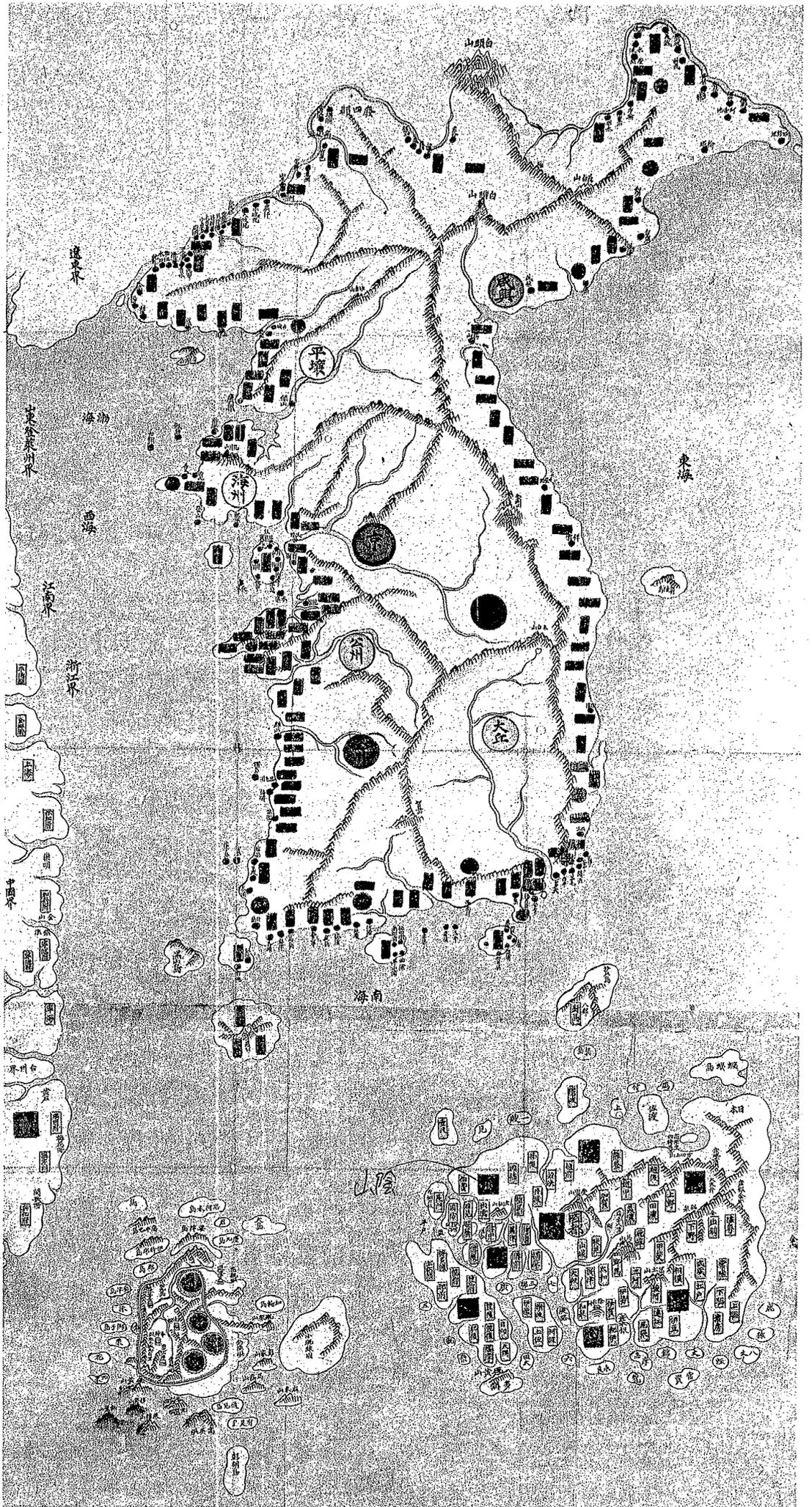
Chosŏn Paldŏ Kogŭm-Ch'ongnam-do Map of Korea, Past and Present Woodblock Print  
by Kim Soo-hong 1673 A.D. 137.5×107.0cm Korean Christian Museum, Soongsil University



69. 江原道 (帖『東國地圖』) 彩色寫本. 鄭尙驥. 18世紀 中期. 104.0×63.0cm. 李燦 所藏.  
 Kangwondo (Tongguk-chido) Map of Kangwŏn Province (Atlas of Korea) Manuscript map in color  
 by Chŏng Sang-gi Mid-18th century 104.0×63.0cm Lee Chan collection

10

No. 5



75

朝鮮・日本・琉球國圖  
(帖『輿地圖』)

彩色寫本

18世紀末期

113.0×59.5cm

서울大學校 奎章閣 所藏

Chōson, Ilbon, Yugu-guk-do (Yō-chido)

Map of Korea,

Japan and Ryukyu (Atlas of Korea)

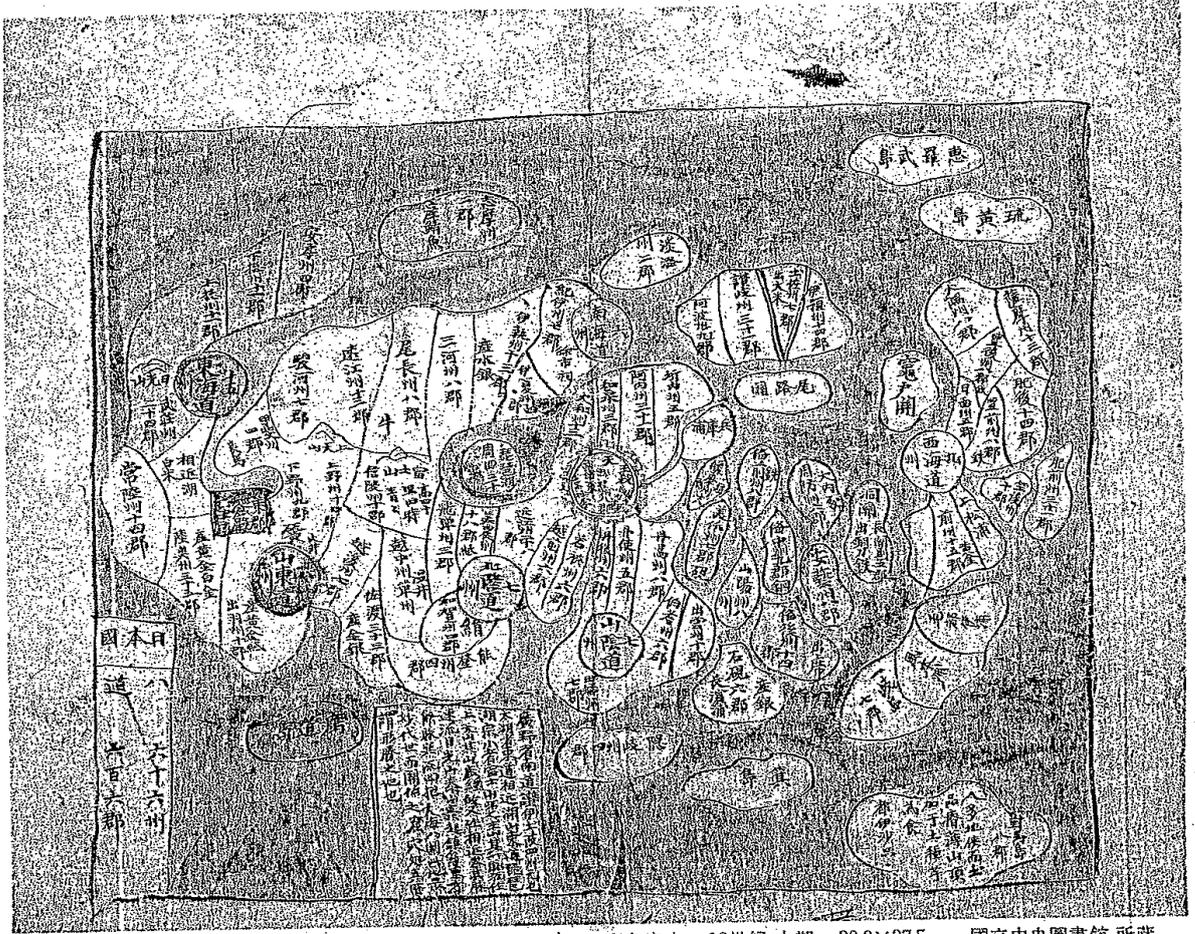
Manuscript map in color

End of 18th century

113.0×59.5cm

Kyujanggak Archives,

Seoul National University



129. 日本國(帖『朝鮮地圖 並 八道天下地圖』) - 彩色寫本, 18世紀中期, 30.0×37.5cm. 國立中央圖書館 所藏.  
 Ilbonguk (Chosŏn-chido Pyŏng Paldo Ch'ŏnha-chido) · Map of Japan (Atlas of Korea with the World)  
 Manuscript map in color · Mid-18th century · 30.0×37.5cm · National Central Library, Seoul

12

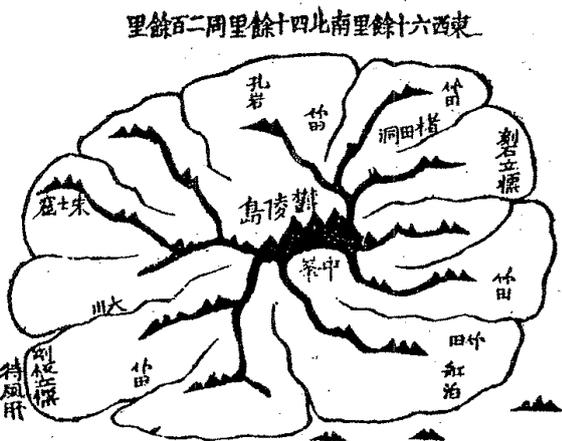
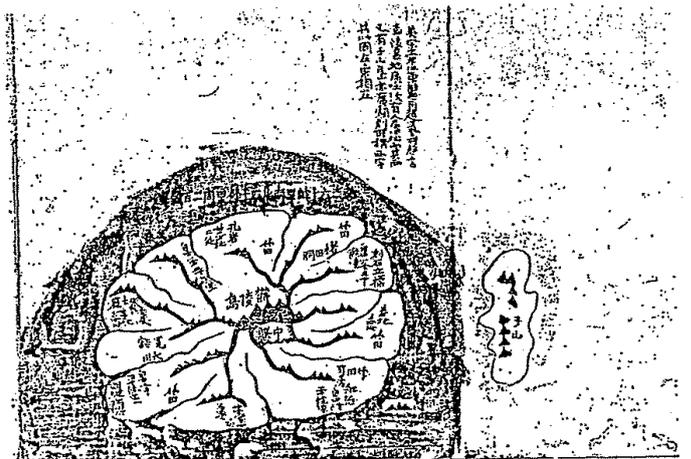


圖14 大東輿地圖  
 (吉田, 1994)

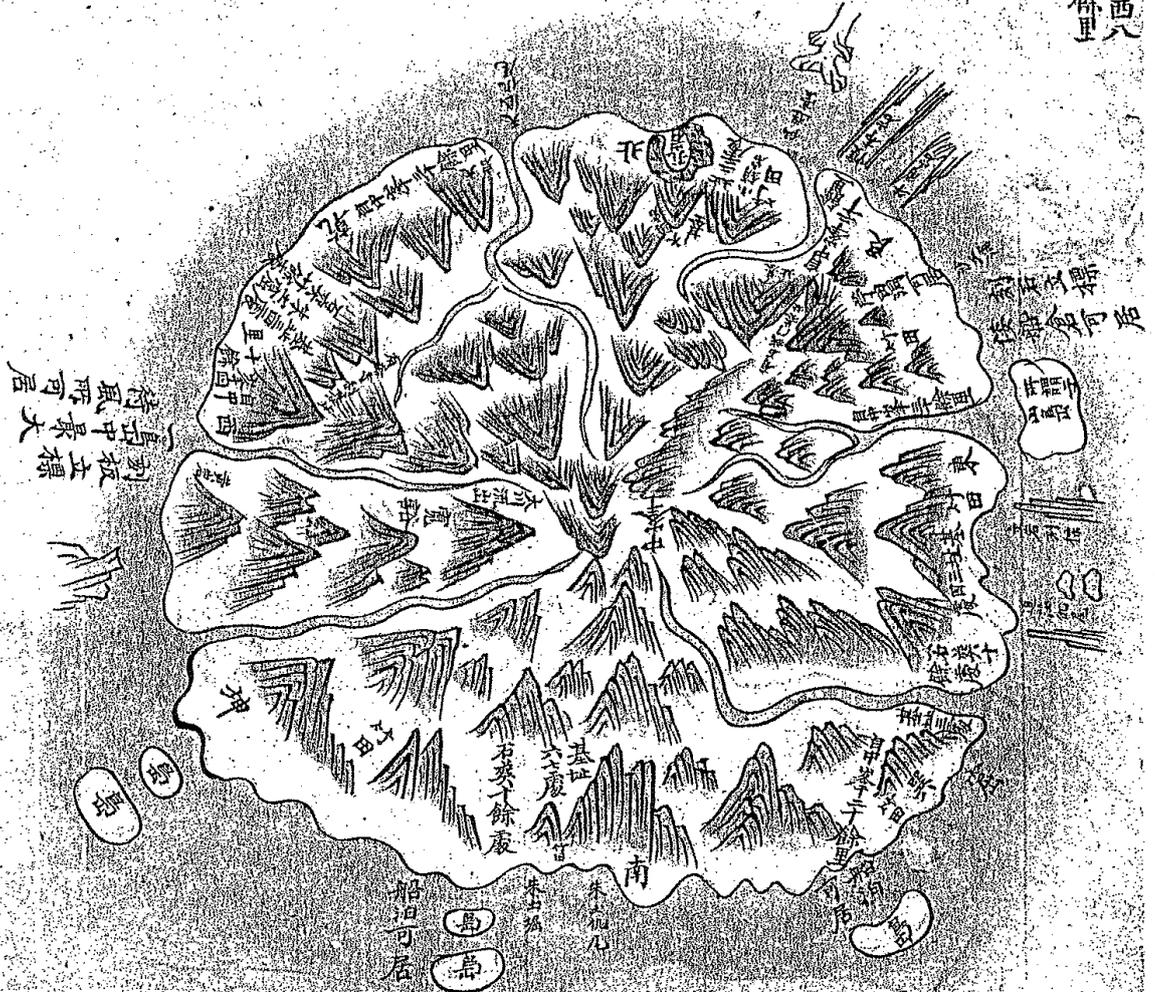


大東輿地圖 第十四帖(部分)

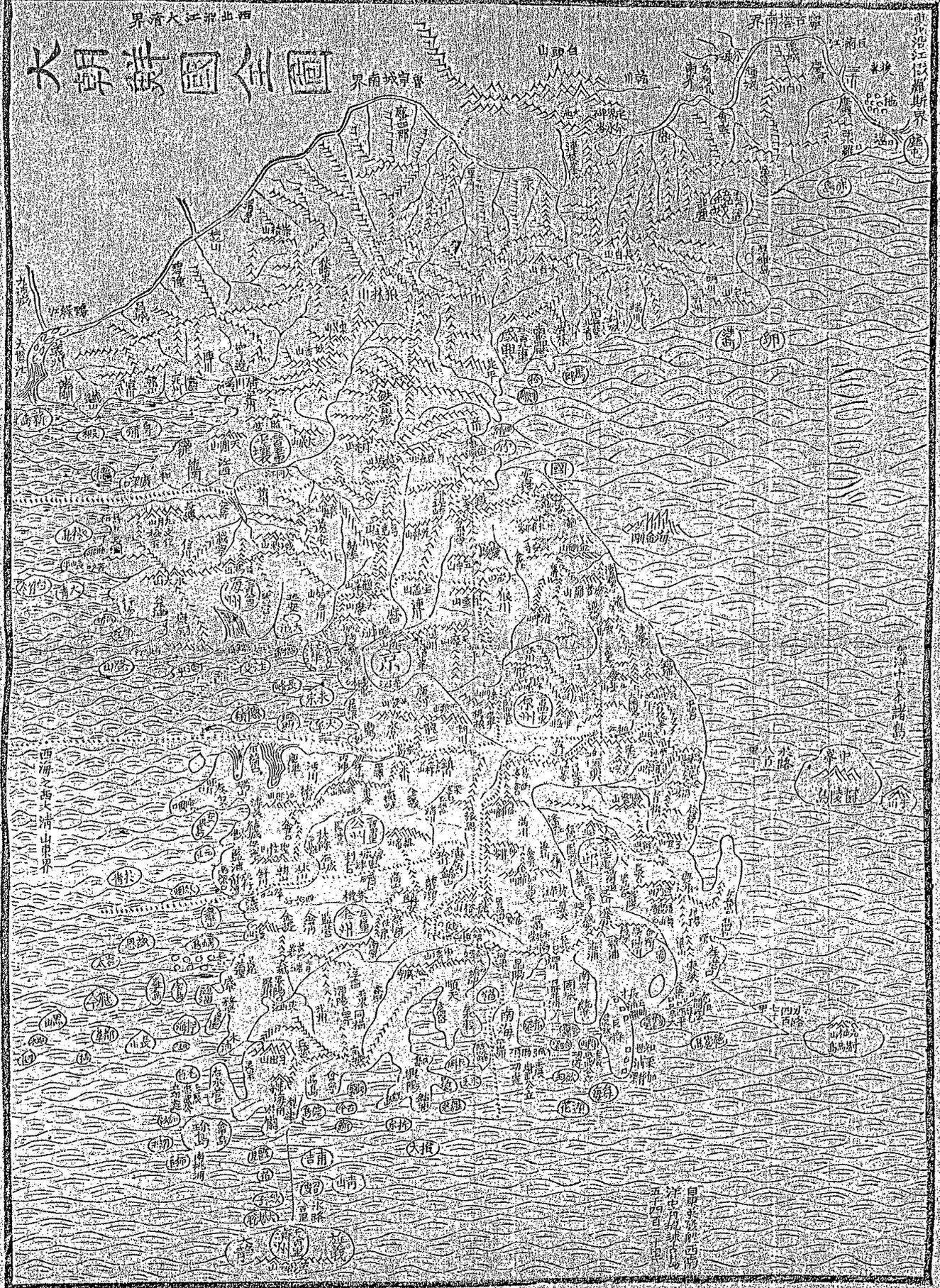
15

(七塚本, 1980)

鬱陵島 周回二百餘里東西八十餘里南北五十餘里  
 物產 甘藷 生魚 可支魚 大小雜魚 香木 栢子木 冬栢木 楓木 檜木 側栢木 黃栢木 梧桐木 檉木 桑木 榆木 篔簹竹 鷹 鷲 鳥 鴉 貓 鼠



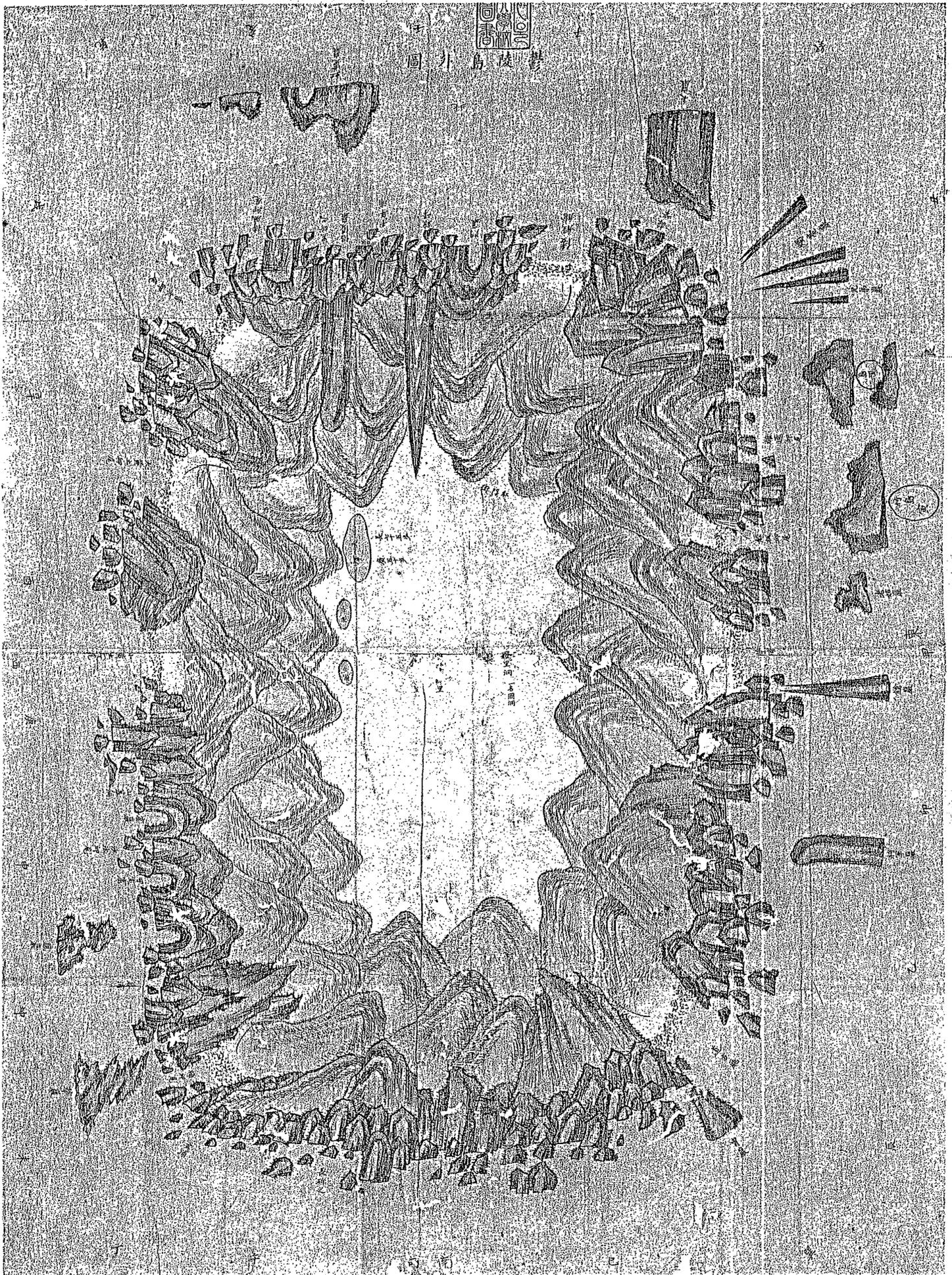
195. 鬱陵島 (帖『海東地圖』) 彩色寫本, 18世紀中期, 47.5×30.0cm. 서울大學校奎章閣所藏.  
 Ullungdo (Atlas of Korea) Map of Ullung Island Manuscript map in color Mid-18th century  
 47.5×30.0cm Kyujanggak Archives, Seoul National University



147. 大朝鮮國全圖 (帖『蝶域地圖』) 銅版本, 19世紀 後期, 21.0×30.0cm, 尹炯斗所藏.  
 Tae-Chosŏnguk Chŏn-do (Chōbyōk-chido) Map of Korea (Atlas of Korea) Copper Plate Print  
 Late 19th century 21.0×30.0cm Yoon Hyung-doo collection

16

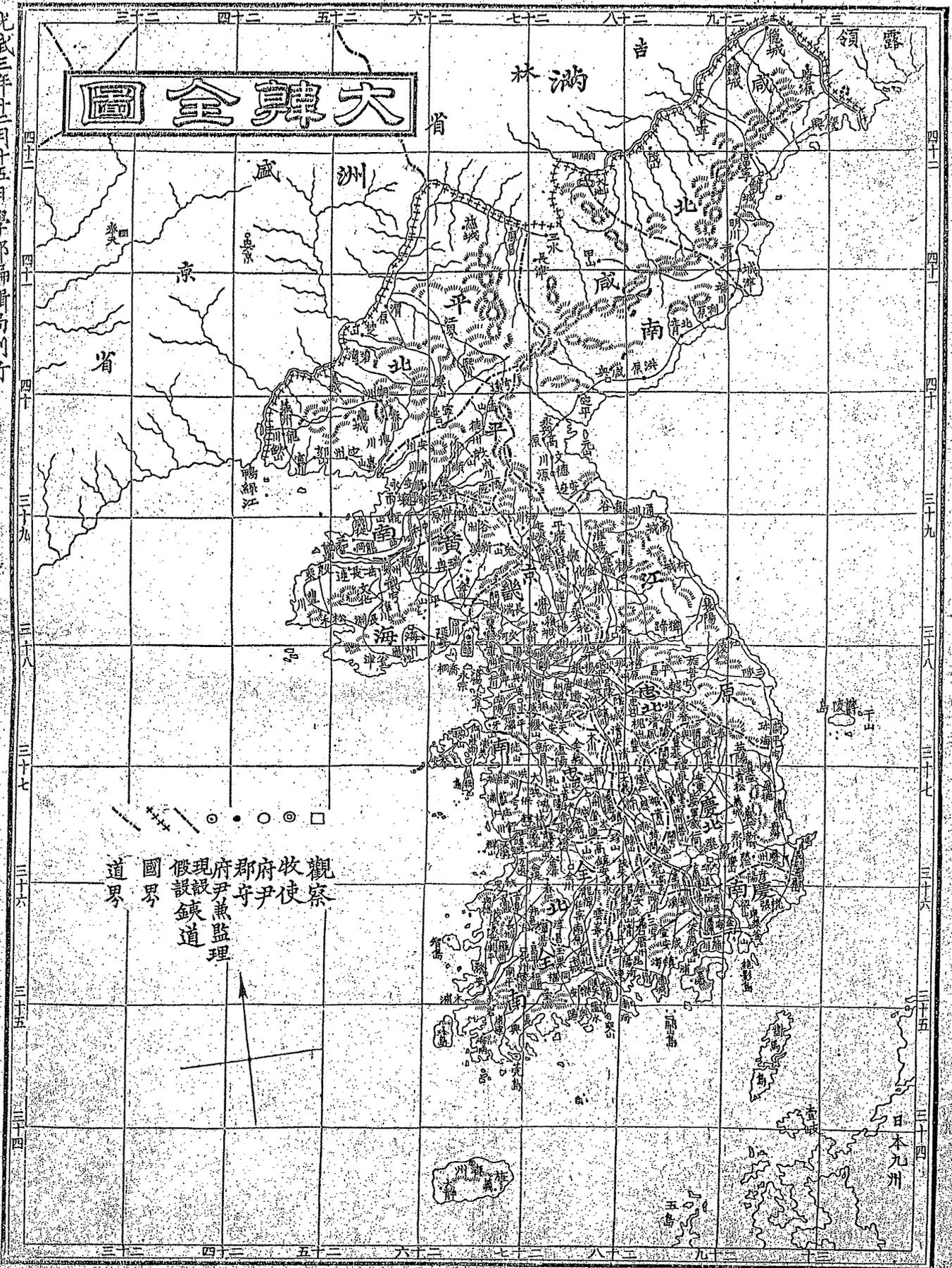
10.7



227. 鬱陵島外圖 彩色寫本. 李奎遠. 1882年頃 134.0×97.5cm. 서울大學校奎章閣所藏.  
 Ullungdo Oe-do Map of Ullung Island Manuscript map in color Yi Kyu-won ca. 1882 A. D.  
 134.0×97.5cm Kyujanggak Archives, Seoul National University

227

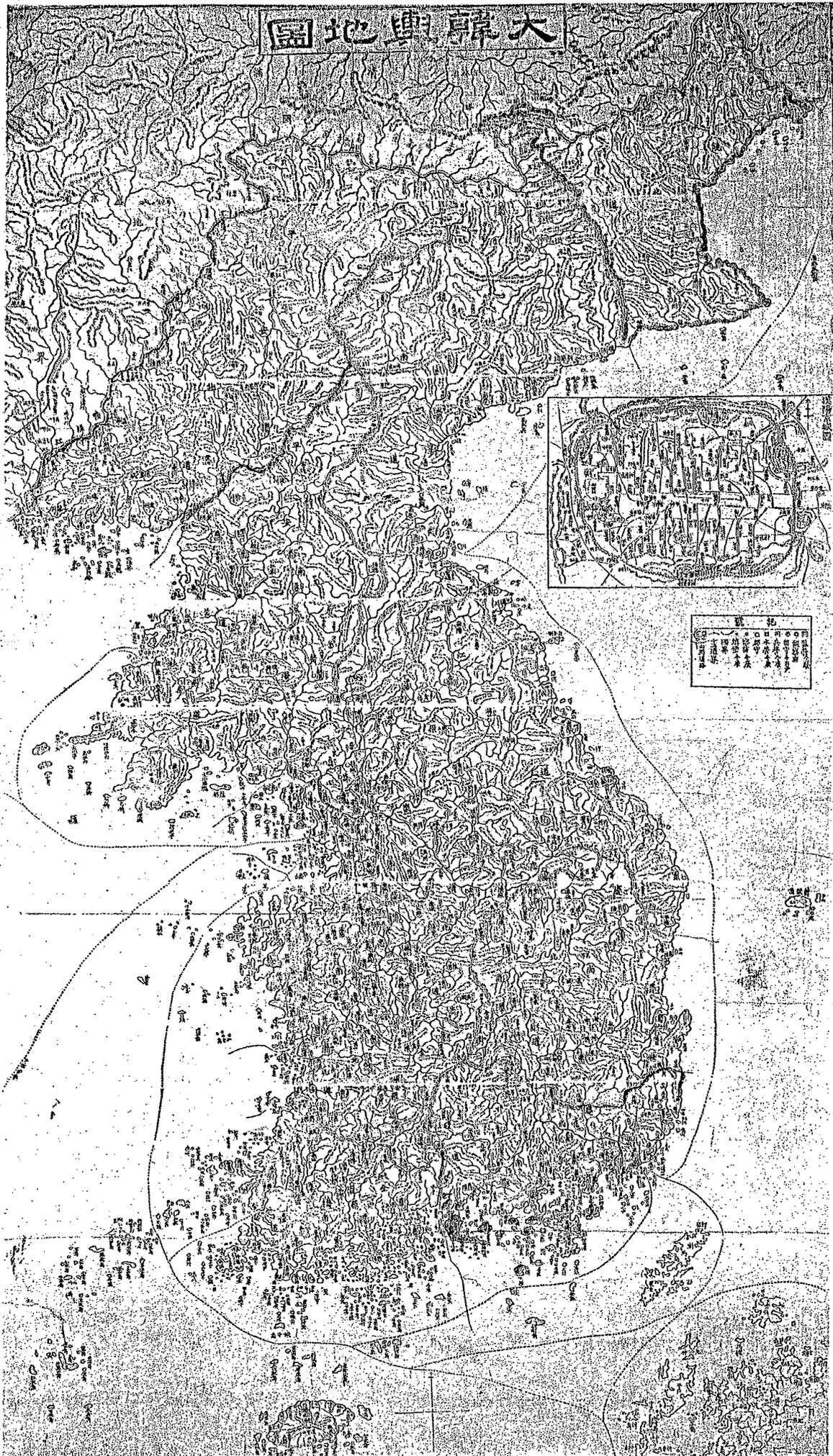
光武三年十二月十五日學部編輯局刊行



155. 大韓全圖 銅版本。學部編輯局。1899年。33.7×25.0cm。李燦 所藏。  
 Taehan Chŏn-dŏ Map of Korea Copper Plate in color Textbook Bureau of Ministry of Education  
 1899 A.D. 33.7×25.0cm. Lee Chan collection

108

108



154.  
 大韓輿地圖  
 銅版本。  
 學部編輯局。  
 1900年頃  
 152.0×84.5cm。  
 李燦 所藏。  
 Tachan Yō-chido  
 Map of Korea  
 Copper Plate Print  
 Textbook Bureau of Ministry  
 of Education  
 ca. 1900 A.D.  
 152.0×84.5cm  
 Lee Chan collection

圖19